

第7章(重点分析) 児童相談所・市区町村における統計未計上相談対応件数の推定

7.1 目的と解析疑問

本章では、事業の主たる目的の一つである「児童相談所および市区町村にて統計未計上となっている子どもの家庭内性被害に関する潜在事例数」の推定を実施する。このとき、「統計未計上」となっている範囲については、「被害を把握しているが計上報告されていない」、あるいは、「別の相談種別で受理がなされているが、性被害そのものは把握されておらず、未計上となっている」など、いくつかのパターンが背景に存在するものと想定される。

本検討では、「性的虐待」または「ネグレクト(性的虐待)」として受理された事例は統計計上がなされているものとみなし、在宅支援中や一時保護・施設措置後等の継続支援中に途中発覚した事例のうち、「性的虐待等で再受理していない」事例が年次統計で未計上になっているものと捉え、全国の児童相談所および市区町村で発生している当該未計上件数を推定する。なお、未計上事例数の把握にあたり、児童相談所および市区町村に対して、対象年度中に受理した全ての事例に対する確認を週及的に依頼することは、過度な調査参加負担を強いることになる。そのため、本事業では「2020年10月中(調査依頼時期直前月)に新規受理または途中発覚した家庭内性被害件数」のみの回答を依頼し、統計的な推定手法を活用することで、回答者の負担軽減を図っている。

解析疑問
児童相談所および市区町村において、通告受理以降に発覚した家庭内性被害のうち、再受理がなされず統計未計上になっていると考えられる事例数は、全国で総計どの程度存在すると推測されるか？

7.2 方法

7.2.1 使用データと前処理

解析に使用するデータは、調査票Aの設問A03「2019年度の家庭内性被害相談対応件数」、設問A06「2020年10月中に新規受理または途中発覚した家庭内性被害件数」、そして設問A08「途中発覚事例における計上方法」の3種とした。

設問A03については、2019年度分の福祉行政報告例に計上した件数となっている。また、設問A06では、当該期間中に受理した事例の件数について、(1)性的虐待またはネグレクト(性的虐待)として最初から受理された事例、(2)受理区分は異なったが当該期間中に受理され性被害が発覚した事例、(3)継続対応中の事例の中から途中発覚した事例について、確証水準が「確証がある」、「強く

疑われる」、「懸念がある」の3つの確証水準別での事例、これらの件数を取得している。また、設問 A08 の計上方法については、在宅支援中・一時保護中・施設等措置後の3つの段階で、三種類の確証水準別に、途中発覚事例に対して、どのように事実を記録しているかを尋ねるものとなっていた。このとき、市区町村に対しては「在宅支援中」の途中発覚事例に対する計上方法についてのみ回答を求めている。

2020 年 10 月中の家庭内性被害について、新規受理・途中発覚事例の各件数を利用し、「計上方法が再受理ではない場合」には統計未計上であると捉えて解析を実施するため、設問 A08 の回答結果から、確証水準別に「再受理をするか否か」という変数を新たに生成した。また、件数に関する回答が欠損となっていた場合は、すべて「0 件」で回答を補完した。すなわち、本解析で得られる結果は「最低限、この程度の未計上が存在するであろう」という下限に関する予測となる。

さらに、解析には、本調査で得たデータの他に、基準数値となる「2019 年度分の福祉行政報告例にて計上報告された、全国児童相談所ならびに市区町村の家庭内性被害(保護者・監護責任者による性的虐待と、保護者・監護責任者以外の者による性被害(ネグレクト))の総計値」の使用を想定した。しかし、本事業の遂行期間中に当該件数の公開がなされない可能性が想定されたため、基準数値は過去の相談対応件数に準じて、児童相談所で 1,500 件から 3,500 件、市区町村では 1,000 件から 3,000 件の範囲で 100 件刻みの値を採用した。すなわち、「もし 2019 年度分の福祉行政報告例における相談対応件数が当該件数だった場合」という想定で、複数パターンのシミュレーションを実施するものとなる。

7.2.2 適格基準

本解析において、データに対する除外基準は設けなかった。設問 A03 における「2019 年度の家庭内性被害相談対応件数」に関して、性的虐待とネグレクト(性的虐待)のいずれかに欠損がある場合には、計上がなされていないものとみなして 0 を代入した。

7.2.3 統計解析

未計上事例数の推定には、目的に合わせて解析モデルを独自に設計する「統計モデリング」の手法を採用した。解析には、統計解析環境 R を使用し、解析モデルの構成には確率的プログラミング言語 STAN と、それを統計解析環境 R から使用する rstan パッケージを利用した。パラメータ推定には、Hamiltonian Monte Carlo 法的一种である No-U-Turn Sampler(NUTS)アルゴリズムを使用した。解析モデルを次に示す。

$$\begin{aligned}
Y_{ij} &\sim \text{Pois}(\lambda_j) \\
\vec{E} &= \mathbf{A} \vec{\lambda} \\
\vec{K} &\sim \text{Pois}(12 \cdot \omega \cdot \vec{E}) \\
M &\sim \text{Pois}(\varphi \sum_{i=1}^I K_i) \\
\omega, \varphi, \vec{\lambda} &\sim G(0.01, 0.01)
\end{aligned}$$

Eq.7-1

ここで、 i は各回答組織を示し(組み入れ組織数 = I)、 j は 3 つ確証水準を示す。 Y は 2020 年 10 月中に新規受理または途中発覚のあった事例件数を示し、 λ_j は確証水準別で求められる 10 月一ヶ月あたりの件数推定平均である。 $\mathbf{A}$ は、各組織の回答を行とし、3 つの確証水準を列として、再受理で計上する場合を 1、それ以外の計上方法を 0 とした要素を持つ行列である。 $\vec{E}$ は、確証水準別の平均パラメータベクトルと行列 $\mathbf{A}$ の積によって、組織ごとに計算された「再受理する確証水準の事例数」に関する全国推定平均の和である。 $\vec{K}$ は回答組織数分の長さを持つ 2019 年度分の家庭内性被害計上数を要素とするベクトルであり、10 月を例とする月別計上数の期待値 $\vec{E}$ に対して、12(ヶ月分)と補正パラメータ ω を乗算した平均を持つポアソン分布から生成されたと考える。このとき、補正パラメータ ω には、「10 月中」の事例を単純 12 倍して 1 年間の件数と捉える際に発生するバイアスと、2020 年 10 月の情報($\vec{E}$)を 2019 年度中の 1 年間($\vec{K}$)に活用する際の年度間のズレの 2 つを補正する意味合いが含まれている。 M は 2019 年度の福祉行政報告例に報告された全国の公開総計値であり、本調査の結果得られた個別の組織報告値の和に補正パラメータ φ を乗算した平均値から生成されたものと仮定されている。すなわち、パラメータ φ は、本調査で得られた回答が全国の報告数の何パーセント程度であったかを捉え、それを逆算的に補正して全国全体の規模に修正する役割を担う。なお、本解析に利用したすべてのパラメータには、その事前分布にガンマ分布($r = 0.01, s = 0.01$)を仮定した。

未計上事例数 P を算出する際には、行列 $\mathbf{A}$ の要素をすべて 1 に置き換えて式 7.2 で求めた。

$$P = I \cdot 12 \cdot \omega \cdot \varphi \sum_{j=1}^3 \lambda_j$$

Eq.7-2

すなわち、未計上事例数 P は、「もしもすべての受理事例が再受理されて年次統計に計上されていたら、全国の総計でどの程度であるか」に関する推定平均を表したものとなる。

7.3 結果

7.3.1 データ抽出結果

調査参加に係る同意等の条件を満たした組織における調査票 A の提出数は、児童相談所 124 箇所(57.7%)、市区町村 492 箇所(26.0%)となった。

7.3.2 全国児童相談所・市区町村の統計未計上事例数推定結果

解析の結果、児童相談所および市区町村のそれぞれについて、福祉行政報告例の相談対応件数が 1,500 件から 3500 件(市区町村は 1,000 件から 3,000 件)であった場合の未計上件数が推定された。その解釈は、「現状の計上方法と 2020 年 10 月度の受理情報を本モデルで解析した場合に、福祉行政報告例における子どもの家庭内性被害の相談対応件数に対して、未計上件数が X 件程度存在すると推定される」というものとなる。

児童相談所における未計上件数と、未計上事例数を想定事例数に加算した推定相談対応件数を図 7.1 に示す。

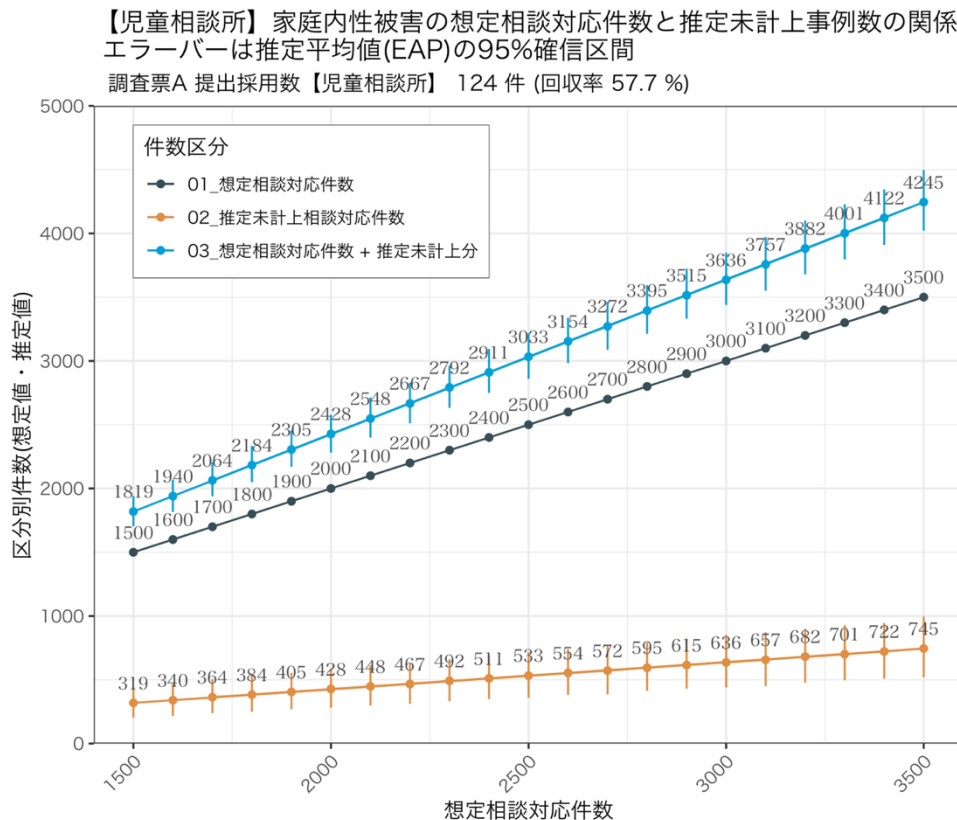


図 7.1 全国の児童相談所における家庭内性被害相談対応件数(想定値)と
途中発覚による未計上件数の推定結果

未計上件数は、2020 年 10 月度の新規受理・途中発覚した子どもの家庭内性被害情報と、各組織の調査時点の件数計上方法から解析的に推定したもの。「被害自体が未だ把握されていない」潜在例は推論範囲に含まれていない。基準となる福祉行政報告例における相談対応件数には最新年度分が未公開のため、1,500 件から 3,000 件の範囲を想定して与えている。

推定の結果、既存の相談対応件数(福祉行政報告例年次統計報告件数)の5分の1程度が、多種別受理事例での途中発覚による未計上件数として存在することが推測された。これを加算すると、およそ既存報告件数の1.2倍程度となる。仮に全国の児童相談所で2500件の年次統計報告件数が得られた場合、途中発覚による未計上件数がおよそ533件程度は存在するだろうという推定結果である。

続いて、全国の市区町村における未計上件数と、未計上事例数を想定事例数に加算した推定相談対応件数を図7.2に示す。

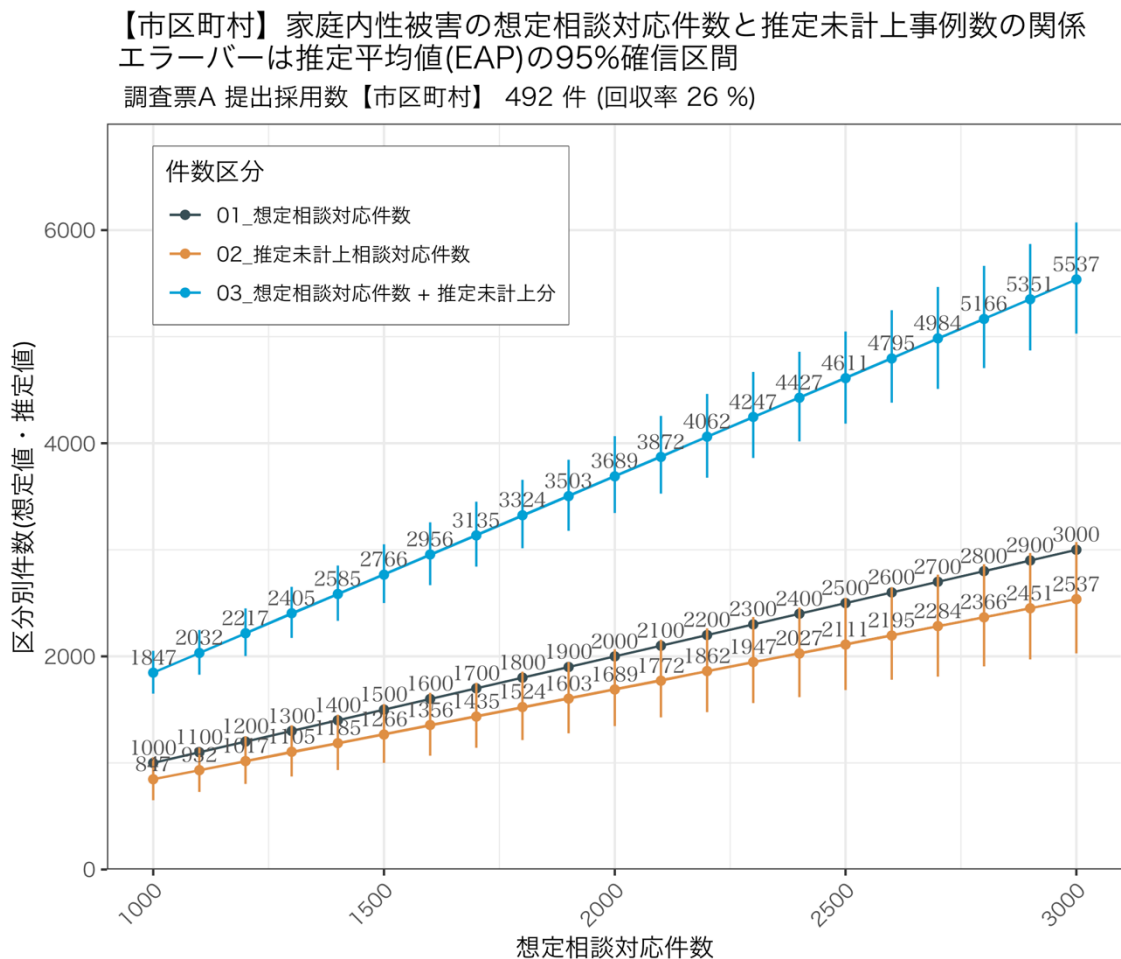


図7.2 全国市区町村における家庭内性被害相談対応件数(想定値)と
 途中発覚による未計上件数の推定結果

未計上件数は、2020年10月度の新規受理・途中発覚した子どもの家庭内性被害情報と、各組織の調査時点の件数計上方法から解析的に推定したもの。「被害自体が未だ把握されていない」潜在例は推論範囲に含まれていない。基準となる福祉行政報告例における相談対応件数には最新年度分が未公開のため、1,500件から3,000件の範囲を想定して与えている。

推定の結果、市区町村においては、既存の相談対応件数(福祉行政報告例年次統計報告件数)のおよそ8割程度が、多種別受理事例での途中発覚による未計上件数として存在することが推測された。これを加算すると、およそ既存報告件数の1.8倍程度となる。仮に全国市区町村で2,000件の年次統計報告件数が得られた場合、途中発覚による未計上件数がおおよそ1,689件程度存在するだろうという推定結果である

7.4 考察

解析の結果、全国の児童相談所および市区町村を総合して、「他種別で相談対応中にある事例から子どもの家庭内性被害が途中発覚した事例」に対する計上方法の違いに由来する年次統計未計上件数が、児童相談所で既存計上数に対して2割程度、市区町村で既存計上数に対して8割程度存在する可能性が推測された。当該途中発覚による未計上件数を考慮するにあたっては、福祉行政報告例における性的虐待および保護者・監護責任者以外の者による性的虐待の合計件数を児童相談所でおおよそ1.2倍、市区町村でおおよそ1.8倍する必要があると考えられる。

なお、本推定に含まれたのは、「他種別での受理事例における途中発覚の未計上事例」のみであり、その他の理由に起因する潜在事例や未計上事例の相談対応件数は考慮の範囲外となっている。したがって、本推定結果は、児童相談所・市区町村で継続対応中にある、すべての事例の中に潜在する子どもの家庭内性被害の一部分を扱ったものに過ぎない。更に言えば、児童相談所や市区町村にさえ繋がっていない潜在的な被害を背景に想定した場合には、更に大きな背景母集団の一部分のみを扱ったものになる。

これらの潜在事例を発見し、正確な数値情報として明示的に計上するためには、第一に、年次統計に係る計上方法の統一が求められることとなる。本事業で扱っている子どもの家庭内性被害を含め、子ども虐待対応に係る児童相談所の件数計上の不統一は従来から指摘されている問題となっている(山本他, 2017)。計上方法の統一にあたっては、各組織の情報管理体制の違いや、導入されている情報管理システム仕様の差異、「被害の確証がある事例」と「被害が疑われる水準の事例」の判別や計上に係る扱い方の難しさなど、様々な課題があるものと考えられる。単一の事例に対して複数種別の相談課題がある場合や、同一家庭に複数の児童が所属し、それぞれに被害内容が異なる場合など、計上に係る扱い方の整理も単純ではないだろう。また、子どもの家庭内性被害が途中発覚する事例の最初の相談種別は、養護相談(虐待)だけではない。被害を受けた子どもに随伴する問題や障害等も様々である(第6章参照)。児童相談所と市区町村が連携し、共同管理する事例等の計上方法なども含め、年次統計の計上方法は、本邦全体の状況を見据えた上で検討してゆく必要がある。

子どもの家庭内性被害の潜在事例を発見し、正確な数値情報として明示的に扱うための第二の視点は、「未だ発見されていない」、「関係機関の支援につながっていない」潜在事例に対するアプ

ローチである。本邦における子どもの家庭内性被害に関する被害実態を可能な限り正確に把握するためには、できる限り多くの潜在事例を発見し、支援につなげてゆくことが不可欠である。児童相談所や市区町村内部における早期発見のための知識・体制等の整備だけでなく、広く子どもや関係支援者に対する知識・対応のあり方に関する教育・研修、そして、広く社会全体に対する啓発・適切な認識の浸透が、それぞれ同時に必要だと考えられる。

第 8 章(重点分析) 管轄児童人口と家庭内性被害相談対応件数の関連

8.1 目的

子どもの家庭内性被害は、他の虐待種別に比べて相談対応件数が少ないと指摘される。2018 年度における児童相談所と市区町村の相談対応件数は、本稿執筆者の計算で 3,486 件となっている(第 3 章参照)。令和 2(2020)年度時点で、220 箇所の児童相談所を加えて、2,000 箇所を超える自治体数を鑑みれば、一組織あたりで経験される子どもの家庭内性被害の年間相談対応件数は、平均して一桁という水準になる。こういった経験例の少なさを踏まえれば、特に相談対応件数の少ない地域において「子どもの家庭内性被害は一部の特殊な地域で発生する問題である」といった認識が生じていても不思議ではない。

本章では、管轄児童人口と、年間の家庭内性被害相談対応件数の関連を検討することで、子どもの家庭内性被害が一部地域に限られた問題であるのか、児童人口に比例してどのような地域でも発生しうる問題であるのか、その様相を確認する。

なお、解析にあたっては、18 歳未満の児童人口を常時把握し、調査で正確な数値が得られやすく、原則対応の中心となる児童相談所のデータを活用することで、上記目的の検討を行う。

解析疑問
子どもの家庭内性被害の相談対応件数は、管轄児童人口に対して線形比例して増加する問題とみなせるか?(どのような地域でも起こりうる問題か?)

8.2 方法

8.2.1 使用データと前処理

調査票 A 設問 A01「2019 年度の管轄地域の児童人口」と、設問 A02 および A03「2019 年度の福祉行政報告例に報告した虐待相談対応件数」の回答データを使用した。設問 A03 については、子どもの家庭内性被害件数を算出するために、「性的虐待」と「ネグレクト(性的虐待)」の二つの種別の件数を合計した。

8.2.2 適格基準

解析対象を児童相談所の回答データとするため、市区町村の回答情報を除外した。また、(1)管轄児童人口に欠損のある回答データ、(2)2019 年度の福祉行政報告例に計上した各種虐待種別の相談対応件数に欠損がある回答データは、本解析からは除外して扱った。

8.2.3 可視化と統計解析

検討事項である「子どもの家庭内性被害の相談対応件数は、管轄児童人口に対して線形比例して増加する問題とみなせるか？」という解析疑問に対しては、様々な検証方法が存在すると考えられる。例えば、児童人口と相談対応件数の関係を記述する際に、線形(直線)関係を仮定したものや、非線形(急激に上昇するなどの曲線)関係を仮定したものを適用し、それらの適合度合い等を比較する手段などが考えられる。本章では、単純に二つの変数の関係を散布図で記述し、その傾向を確認することで、簡便的に両者の関係性を把握する。このとき、管轄児童人口は都市部と郡部、都道府県か政令市や中核市設置かなど、児童相談所によって極めて大きく異なるものとなる。そこで、本章では、児童人口を対数化したものを X 軸に取り、Y 軸に相談対応件数を取ることで視認性を確保することとした。この時、元のスケールで変数間の関係が直線的な増加傾向にある場合、X 軸を対数に変換すると、Y 軸は指数増加することとなる。

なお、前章にて検証したように、家庭内性被害の報告件数は、各組織の途中発覚事例に対する計上方法・受理方法で異なることが想定される。そこで、児童人口と相談対応件数の関係を、各組織の計上方法別で記述する統計解析を実施し、計上方法に由来した傾向の違いを加味して両変数の関係を把握する。また、比較の為に、子どもの家庭内性被害の他、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトの相談対応件数についても同様に可視化と統計解析を行う。

解析に使用するモデルを式 8-1 に示す。目的変数に負の二項分布を仮定した、階層ベイズモデルを構成した。

$$\begin{aligned}\alpha_j, \beta_j &\sim \text{Normal}(0, 10) \\ \ln(\mu_i) &= \alpha_j + \ln(X_i) \cdot \beta_j \\ r_i &= \frac{\mu_i^2}{\sigma_j^2 - \mu_i}, p_i = \frac{\sigma_j^2 - \mu_i}{\sigma_j^2} \\ Y_i &\sim \text{NegativeBinomial}(r_i, p_i)\end{aligned}$$

Eq. 8-1

ここで、添字の i はそれぞれの児童相談所、j は途中発覚事例に対する計上方法の種別を示す。計上方法の種別は、在宅支援中・一時保護中・施設等措置後のそれぞれにおける 3 つの確証水準別の「再受理」該当数を計上したものであり、0 個から 9 個までの範囲を取る。 α_j と β_j は種別ごとの切片と傾きを示し(対数スケール)、傾きについては児童人口の尺度も対数スケールとなっている。目的変数となる相談対応件数 Y が負の二項分布に従うと仮定し、予測子 μ_i を変換してパラメータ r, s を導出して解析を実施した。負の二項分布は、カウント(非負の整数)データに対して適用される代表的な確率分布の中でも、扱いやすく、特に分散の表現範囲に柔軟であるという利点から目的変数に仮定する確率分布として採用した。解析には、統計解析環境 R を使用し、解析モデルの構成には確率的プログラミング言語 STAN と、それを統計解析環境 R から使用する rstan パッケージ

ジを利用した。パラメータ推定には、Hamiltonian Monte Carlo 法の一つである No-U-Turn Sampler(NUTS)アルゴリズムを使用した。

8.3 結果

8.3.1 データ抽出結果

調査参加に係る同意等の条件を満たした組織における調査票 A の提出数は、児童相談所 124 箇所(57.7%)、市区町村 492 箇所(26.0%)となった。解析には、管轄児童人口と各種虐待種別における 2019 年度の相談対応件数に欠損のない児童相談所の回答情報 120 箇所分(55.8%)を組み入れた。

8.3.2 児童人口と子どもの家庭内性被害を含む虐待相談対応件数との関係

可視化と統計解析の結果、組入れ基準を満たした児童相談所の管轄児童人口と 2019 年度の各種虐待相談対応件数の関係が図示された。X 軸に所与した管轄児童人口は対数スケールとし、Y 軸に所与した相談対応件数は件数の単位(元スケール)と対数スケールの 2 つを並置した。なお、件数が 0 件となる場合、対数スケールに変換すると値が負の無限大となるため、グラフ上は枠の下限にそれを表示している。

子どもの家庭内性被害の発生報告件数と比較するために、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトに関する処理の結果を図 8.1 から図 8.3 に示す。

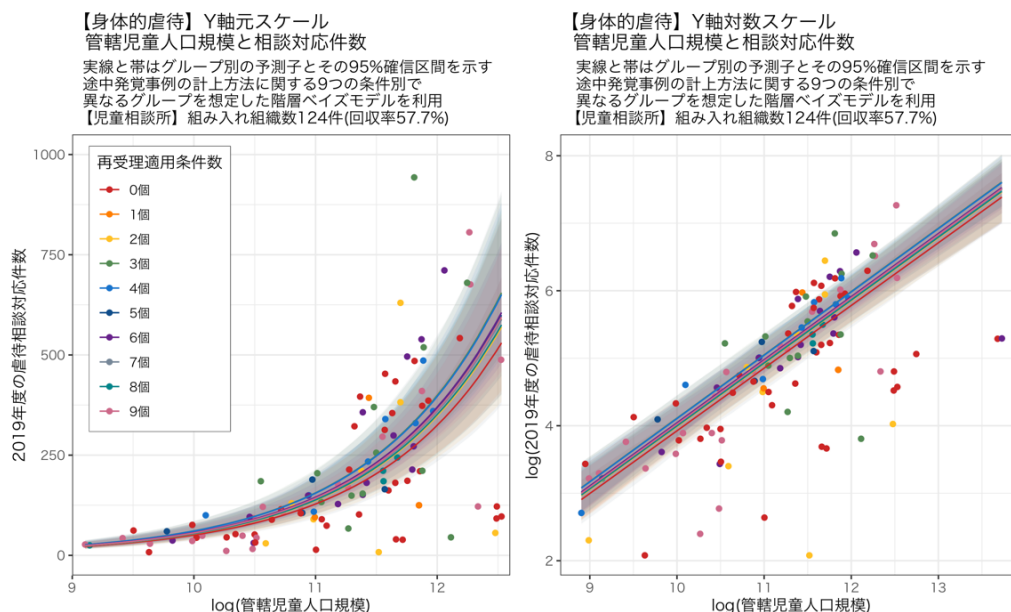


図 8.1 児童相談所における管轄児童人口規模と
2019 年度の身体的虐待の相談対応件数との関係

管轄児童人口は「2019 年度の 4 月度や年度末など任意時点の人数か、入手困難な場合は入手可能な内で最新のものを記入。もしくは、最も新しい 19 歳以下の人口を記入」するよう案内されたものとなるため、児童人口元来の定義に対して数値の正確性が十分に担保されていない。参考値として解釈されたい。

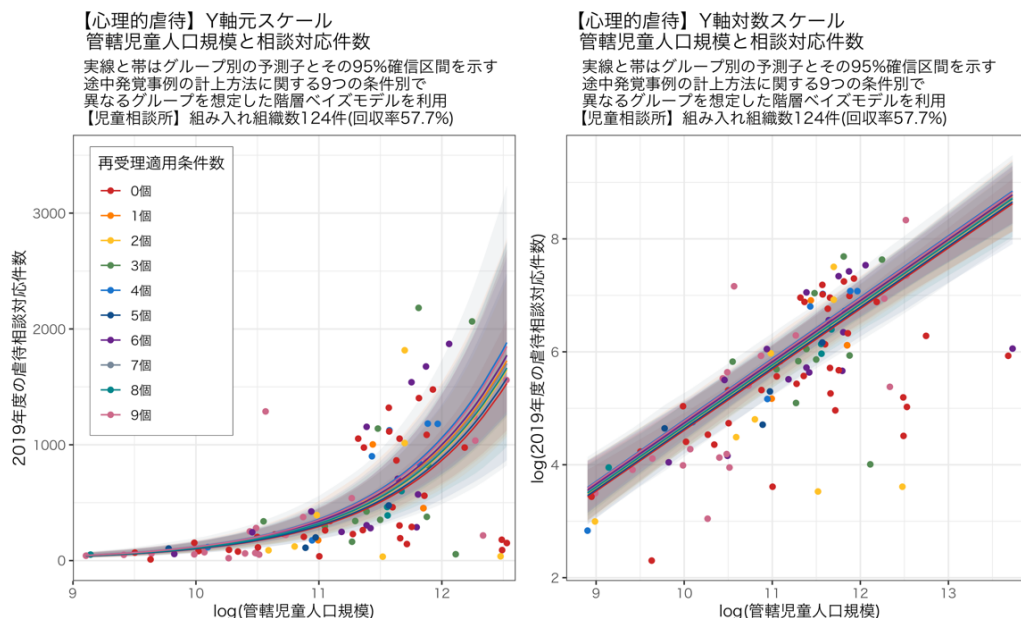


図 8.2 児童相談所における管轄児童人口規模と
2019 年度の心理的虐待の相談対応件数との関係

管轄児童人口は「2019 年度の 4 月度や年度末など任意時点の人数か、入手困難な場合は入手可能な内で最新のものを記入。もしくは、最も新しい 19 歳以下の人口を記入」するよう案内されたものとなるため、児童人口元来の定義に対して数値の正確性が十分に担保されていない。参考値として解釈されたい。

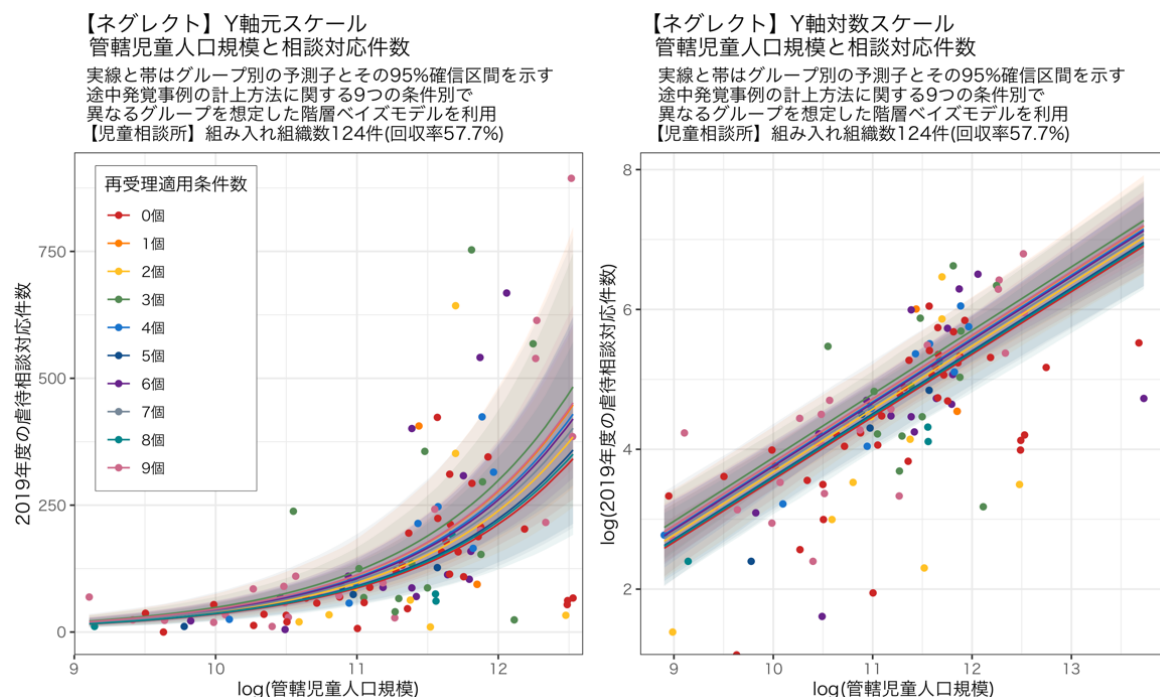


図 8.3 児童相談所における管轄児童人口規模と
2019 年度のネグレクトの相談対応件数との関係

管轄児童人口は「2019 年度の 4 月度や年度末など任意時点の人数か、入手困難な場合は入手可能な内で最新のものを記入。もしくは、最も新しい 19 歳以下の人口を記入」するよう案内されたものとなるため、児童人口元来の定義に対して数値の正確性が十分に担保されていない。参考値として解釈されたい。

図の右パネルは X 軸 Y 軸ともに対数スケールとなっている。Y 軸に与えた件数には、0 件が含まれている。対数化した場合に負の無限大となるため図示できないことから、当該情報はグラフパネルの枠の下限に示している。

身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトのそれぞれにおける管轄児童人口規模と各種相談対応件数の関係を確認すると、児童人口に比例して相談対応件数が増加する傾向が確認された。図 8.1 から図 8.3 の左パネルを確認すると、対数スケールの児童人口に対して相談対応件数が指数関数的に増大する関係を見て取ることができる。また、図 8.1 から図 8.3 の右パネル(Y 軸も対数スケール)を確認すると、両変数の関係がおおよそ直線的(線形)な関係で記述されうる散布図となっている(なお、これは視覚的情報に基づく任意の解釈である)。ただし、児童人口規模が増大するにつれて、「同一規模であっても相談対応件数に数倍、数十倍といった開きがある」ことも読み取ることができる。

各種相談対応件数が、「途中発覚事例の計上方法に由来するもの」である可能性を考慮するために実施した統計解析の結果は、各図に示された実線と帯に示されている。ここでは「子どもの家庭内性被害に関する再受理計上条件個数」別での解析となっているため、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクトのそれぞれについての計上方法とは独立した別の側面を扱っている可能性があるため、参考程度にとどめられたい。解析の結果、「再受理の計上条件数」の順序に関わらず、また、それ

ぞれの条件毎に明確な差は認められなかった。なお、本解析に仕様したモデルでは、児童人口と相談対応件数の関係について、条件別に正負両方の方向(右肩上がり・右肩下がり)を取ることができよう理論上想定されていたものの(ただし、階層性の仮定による縮約(shrinkage)の影響は受ける)、いずれの条件においても両変数の関係性は類似するものとなった。

身体的虐待・心理的虐待・ネグレクトにおける児童人口規模と、それらの相談対応件数との関係を踏まえた上で、図 8.4 に子どもの家庭内性被害に関する解析等処理の結果を示す。

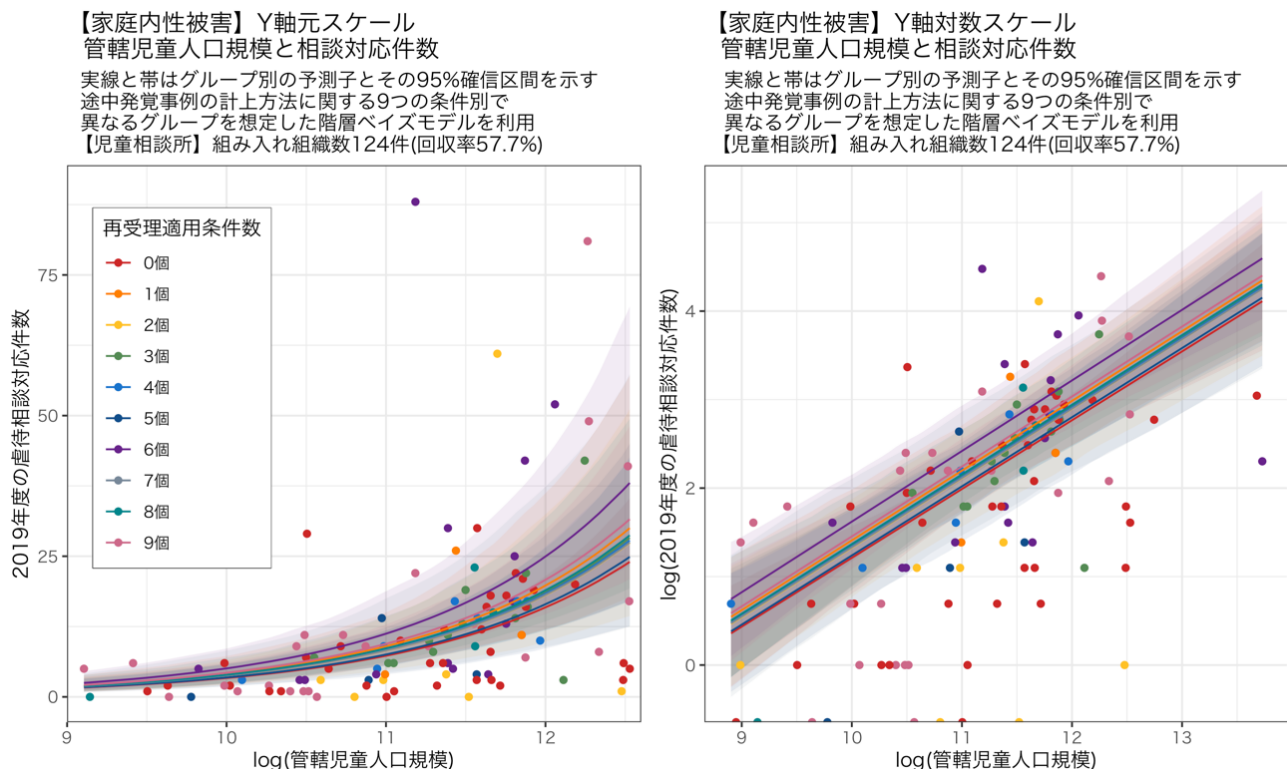


図 8.4 児童相談所における管轄児童人口規模と 2019 年度の

子どもの家庭内性被害(性的虐待またはネグレクト(性的虐待))の相談対応件数との関係

管轄児童人口は「2019 年度の 4 月度や年度末など任意時点の人数か、入手困難な場合は入手可能な内で最新のものを記入。もしくは、最も新しい 19 歳以下の人口を記入」するよう案内されたものとなるため、児童人口元来の定義に対して数値の正確性が十分に担保されていない。参考値として解釈されたい。

図の右パネルは X 軸 Y 軸ともに対数スケールとなっている。Y 軸に与えた件数には、0 件が含まれている。対数化した場合に負の無限大となるため図示できないことから、当該情報はグラフパネルの枠の下限に示している。

子どもの家庭内性被害に関しては、他の虐待種別と同様にして、児童人口に比例して相談対応件数が増加する傾向が確認されたものの、その関係について(他種別に比べて)線形性の明確さに劣るものとなった(ばらつきが大きい)。他方、「再受理の計上条件数」の観点からは、他の虐待種別と同様に、それぞれの条件毎に明確な差や順序性は認められなかった。また、児童人口規模が増大す

るにつれて、「同一規模であっても相談対応件数に数倍、数十倍といった開きがある」ことは、他の虐待種別と同様に確認された。

8.4 考察

可視化と解析の結果、子どもの家庭内性被害を含む各種虐待は、児童人口に比例して相談対応件数が増大する傾向にあることが示された。また、児童人口が少ない場合であっても発生報告があり、児童人口の増加に伴って件数に開きが生じていることが視認された。子どもの家庭内性被害については、他の種別と比較して線形性に乏しいものの、児童人口に比例して相談対応件数が増加する傾向は同様に認められた。また、相談対応件数の高低(モデル仮定上の切片)や比例の度合い(モデル仮定上の傾き)は、再受理条件の該当数で差異や順序性は認められなかった。

本章の検討目標である「子どもの家庭内性被害は一部地域のみに見られる特殊な問題か？」という問いに対して結果を総合すれば、(1)児童人口規模の小さい地域でも発生報告がなされており、(2)児童人口の増加に伴って、およそ線形的に比例しているとみなすことが現時点で最善と考えられることから、「子どもの家庭内性被害はどのような地域でも発生する問題であり、子どもの人数に応じて相談対応件数は(全体を俯瞰した視点からは)増加するものである」と結論するのがここでは次善と考えられる。

ただし、特に人口の大きい地域では、同程度の児童人口規模であっても相談対応件数に大きな開きがあることが観察されたことから、一部地域においては特別に相談対応件数が多い(あるいは少ない)といった差異がある可能性は指摘される。このとき、本事業で扱っているのは相談対応件数であり、潜在例を含めた発生件数でないことは、改めて留意されたい。すなわち、地域における件数の多寡については、発生件数に関する地域的な差異が反映されたものか、児童相談所につながりやすいといった特徴を反映したものかについては、ここでは判断することができない。

同程度の児童人口に対して相談対応件数に児童相談所間で(途中発覚事例の計上方法に依らず)大きな開きがあるという実態は、別の観点への示唆を与えるものとなっている。例えば、「児童人口に対して、児童福祉司等の職員配置人数を決定する」といった体制に関する発想は、特に管轄児童人口の多い地域で大きなミスマッチを生じさせる可能性があると考えられる。多様な地域性を考慮した、個別の実態に即した配置が重要となるだろう。

なお、本章の検討には複数の限界がある。第一に、児童人口の数値に対する正確性が不十分である。第二に、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクトの可視化・統計解析で用いた「途中発覚に係る再受理計上条件数」は、子どもの家庭内性被害を対象としたものであり、それら三種に対する計上方法とは独立した別の側面を扱っている可能性がある。第三に、特に子どもの家庭内性被害に関しては、重々存在が指摘される「未発見による潜在事例」を扱っていない。そして、児童人口に対して相談対応件数が増加する傾向から、「どのような地域でも起こりうる問題である」と考えられる

ものの、その発生率等に関する共通性・個別性については十分な検証がなされていない。これらを踏まえ、本章の結果は事業内で実施可能な次善の取組として捉え、参考に止めるとともに、正確な情報把握を目指す後続の取組が必要になると考えられる。

第9章(重点分析) 児童相談所および市区町村で被害の把握された子どもの 家庭内性被害事例の発生パターンに関する解析

9.1 目的

潜在的な性被害を早期に発見するためには、子ども自身に対するアプローチも重要な役割を果たすと考えられる。そして同時に、被害の発見に係る周囲の大人による鋭敏な眼差しも必要となる。しかし、(1)そもそも子どもの家庭内性被害がどのような構造のもとに発生するのか、(2)観察可能な被害のサインは何かといった知識がなければ、外部から発見の糸口を掴む手立てを確保も困難になる。

本章では、特に「子どもの家庭内性被害がどのような家庭・家族関係(構造)のもとに発生するのか」について、(加害者不明の状態を想定して)男性・女性養育者それぞれの特徴と(ひとり親等の場合はどちらか)、被害児童の特徴、そして互いの関係性や外部からの観察所見に加え、世帯情報・養育環境情報のパターンを把握し、それらを統合して被害発生構造に関する典型例を抽出する。なお、被害を受けた子どもに見られる、外部から観察可能な被害のサインについては、第11章から第13章で詳細に検討する。このとき、統計解析によって示されるのは、平均値等の代表値に基づく典型例等の情報となる。すなわち、統計解析を適用することを前提とした場合には、特殊な例や珍しい例を「ノイズ」として扱ってしまう性質があり、これを避けることは難しい。そういった特殊例の見落としを防止するため、本章では統計的手法を用いた結果のみを整理するものの、回答者からの自由記述等の情報を組み合わせて、個別具体的な要素を補完し、第21章にて全体を総合した知見に整理することを前提に進める。

解析疑問
子どもの家庭内性被害は、どのような家庭・家族関係(構造)のもとに発生しているか？

9.2 方法

子どもの家庭内性被害の発生構造について検討するため、統計解析技法を用いた量的検討と、児童相談所と市区町村から回答の得られた、「経験のある被害の発生パターン」に関する自由記述回答(調査票A 設問A12)の要約結果に基づく質的検討を実施し、その両者の結果を総合する。

9.2.1 統計解析

量的検討では、調査票 B を用いた事例調査で得られた情報を活用し、(1)居住者・出入り者情報(設問 B06)、(2)家庭全体での加害・被害等関係情報(設問 B06・設問 B14)、(3)男性養育者の他方の養育者に対する態度(設問 B18)、(4)女性養育者の他方の養育者に対する態度(設問 B18)、(5)男性養育者に対して被害児童が抱く評価・感情(設問 B18)、(6)女性養育者に対して被害児童が抱く評価・感情(設問 B18)、(7)男性養育者の被害児童に対する態度(設問 B18)、(8)女性養育者の被害児童に対する態度(設問 B18)、(9)男性養育者に対する外部観察時の印象・調査結果・関係機関から得られた情報(設問 B18)、(10)女性養育者に対する外部観察時の印象・調査結果・関係機関から得られた情報(設問 B18)、(11)被害児童に随伴する問題あるいは障害と養育環境に関する情報(設問 B04・設問 B07)のそれぞれについて、観測パターンに関する解析を実施した。

観測パターンの解析には、潜在クラス分析(Latent Class Analysis)を使用した。当該手法は、複数の質的な顕在変数(観測変数)への応答パターンを、質的な潜在変数として表現された「潜在クラス」という形式で類型化して、情報を縮約する手法である(稲垣・前田, 2015)。

潜在クラス分析のパラメータの推定には、EM アルゴリズム(Expectation Maximization Algorithm)を用いた。当該アルゴリズムを用いて対数尤度を最大化し、解析的にもっとも合理的な事例の帰属確率(ある子どもがどの潜在クラスに含まれるか)や条件付き応答確率(あるクラスでは、どのような項目に該当する可能性が高いか)を推定する。

なお、当該データセットでいくつの潜在クラスを仮定するかについては、本解析では Akaike Information Criterion(または、An Information Criterion: AIC, Akaike, 1973; Akaike, 1974)を利用した。本解析では 2 から 10 までの潜在クラス数を仮定し、AIC 最小となるクラス数を求めた。ただし、採用クラス数において、「あるクラスに 1 例のみの事例しか含まれない」場合には、事例の特定可能性が発生するため、次に AIC の値が小さなクラス数を採用した。解析には、統計解析環境 R のパッケージ poLCA(Drew & Jeffrey, 2011)を利用した。ある事例が該当するクラスを決定する際には、帰属確率が最も高いクラスであるという条件を採用した。なお、各クラスの番号・出現順序は解析時の乱数(シード)値に由来するものであり、解釈上の意味は有さない。

潜在クラス分析を用いる目的は「多様な組み合わせを持つ数量情報を、共通性・客観性のある方法にて情報を圧縮し、了解しやすくする」ことにあり、解析によって被害発生等の「パターンを決定づける」ことではない。子どもの家庭内性被害に関連する各種情報を探索的に整理し、被害の発生構造の把握や説明に関する手がかりを得ることが主眼になる。

解析の結果得られた潜在クラスの情報を解釈する際には、各クラスにおける各項目への該当確率を示す条件付き応答確率の数値情報を用いた。

9.2.2 適格基準

潜在クラス分析に用いるデータについて、全体に対して適用する除外基準には、受理時点の年齢を調査回答時の年齢から受理年月からの経過年月を差し引いて求めた際に負の値になる、または、どちらか片方の欠損により計算ができないレコードを除外した。個別の観点に対する分析では、(1) 養育者の所見や被害児童との関係等に関する個別の 11 観点ごとにおける回答の全欠損、(2) 「回答困難ラベル」にチェックのあった回答を除外した。なお、個別の観点に対する解析結果を統合する際に発生する組み合わせ上の欠損は、「欠損」の明示的なラベルを与えることで、各事例のレコード情報を保持した。

9.2.3 使用データと前処理

潜在クラス分析に用いるデータについて、複数選択式の回答はチェックボックスの該当箇所を 2、非該当(または未観測・未報告等)は 1 とラベル化し、「該当報告がある」ことを示すダミー変数に変換した。また、居住情報に係る「居住」、「頻繁な出入りがある」、「出入り低頻度/無」については、「居住」を 2 とラベル化し、それ以外を 1 とした。

9.3 結果

9.3.1 データ抽出結果

潜在クラス分析に使用するデータには、1017 事例の報告事例のうち、適切に受理時点の被害児童の年齢が計算された 704 事例のデータが組み入れられた。個別の分析に用いられた事例数は、各節の結果における図中に記載する。

9.3.2 家族構成・居住者と加害・被害関係

家族構成・居住者に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 5 クラスの場合(AIC = 8171.80)であり、各クラス内に含まれる事例数が 2 例以上存在したため、当該 5 クラスの結果を採用した。結果を図 9.1 に示す。

重点分析: 家族構成・居住者の潜在クラス
世帯構成情報に欠損のない702件の事例情報を使用

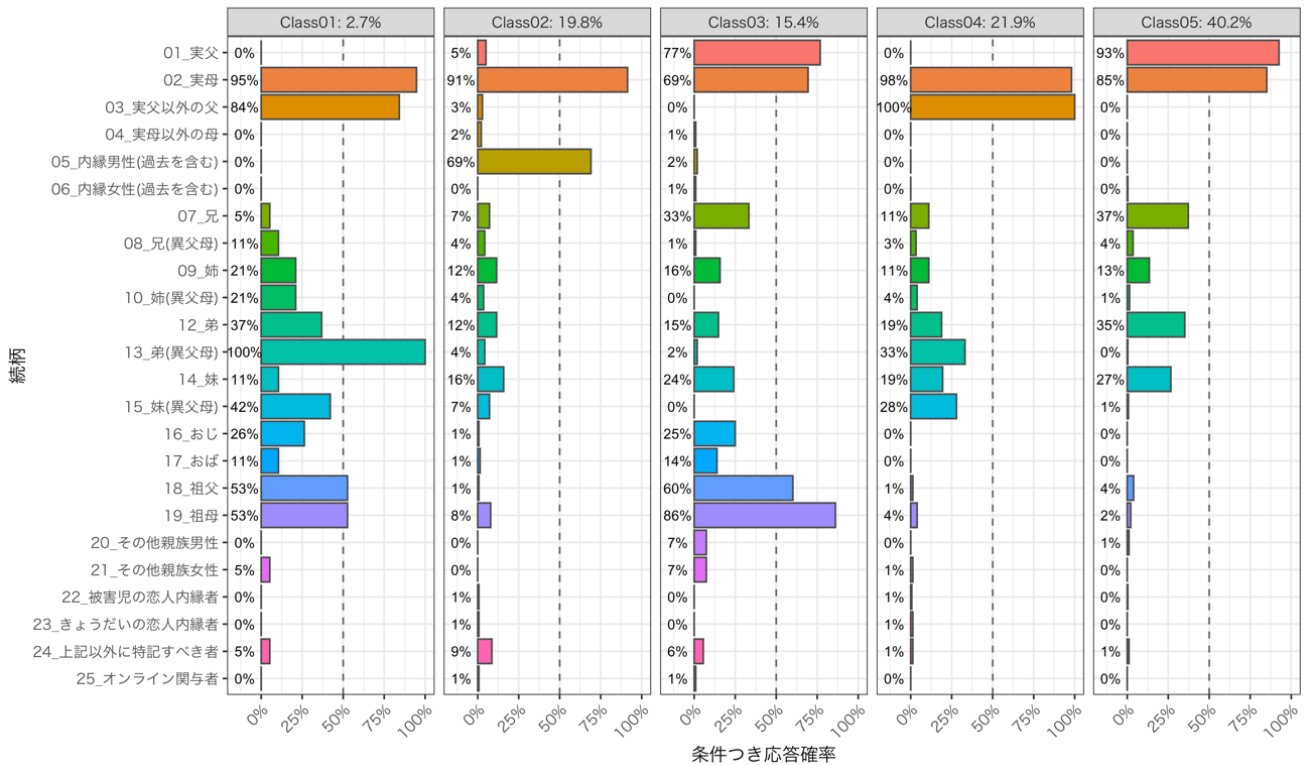


図 9.1 家族構成・居住者に関する潜在クラス分析の結果
クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

条件つき応答確率に基づくクラス別の特徴記述を表 9.1 に整理する。なお、クラスの識別名称は抽出されたパターンを言語的に簡潔に扱うためのものであって、パターンや現象を命名するものではない(番号より理解しやすいという位置付けである)。本事業報告書内部のみで扱うにあたっての、記号的役割しか付与していないことに留意されたい。潜在クラス分析によって抽出されるパターンは数量的な情報のみに基づいており、背景のメカニズムに沿った類型や、理論的に導かれる類型などと必ずしも一致するものではないためである。したがって、何らかの解釈を加える際には、識別名称の言語的意味に基づいて行うのではなく、各図に示す条件つき応答確率を参照しながら、数量的解析では損失してしまっている個別情報の範囲までを想定しつつ仮説的に実施する必要がある。

表 9.1 家族構成・居住者に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	実母ステップファミリー (SF)_親族同居あり	2.7%	実母と実父以外の父により構成。おじ、おば、祖父母等の親族同居がある	被害児と異父母のきょうだいも同居することが多い	構成比としては最も少ない
02	母子家庭_内縁男性	19.8%	実母の母子家庭。69%で内縁男性の同居や出入りがある。	祖父母等の親族が同居することはまれ。被害児童以外にきょうだいがいるケースは、相対的に少ない	実父が同居している場合もある。上記以外の特記者は、「母の内縁者」との補足回答があった
03	実父母家庭親族同居あり_ひとり親含む	15.4%	実父母家庭で祖父母を中心とする親族同居率が高い	被害児童からみて、異父母のきょうだいがいることは、ほとんどない	実父母それぞれの条件つき応答確率が100%ではないため、母子家庭・父子家庭が一定数ここに含まれている
04	実母ステップファミリー_親族同居なし	21.9%	実母と実父以外の父により構成。祖父母等の親族の同居はほとんどない		
05	実父母親族同居なし_ひとり親の場合含む	40.2%	実父母家庭であり、親族の同居がほとんどない	被害児童からみて、異父母のきょうだいがいることはほとんどない	クラス構成比では最も大きい割合を占める。 実父母それぞれの条件つき応答確率が100%ではないため、母子家庭・父子家庭が一定数含まれる

9.3.3 家庭内での加害・被害等関係

家庭内での加害・被害等関係に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは7クラスの場合(AIC = 6859.33)であり、各クラス内に含まれる事例数が2例以上存在したため、7クラスの結果を採用した。図9.2に示す。

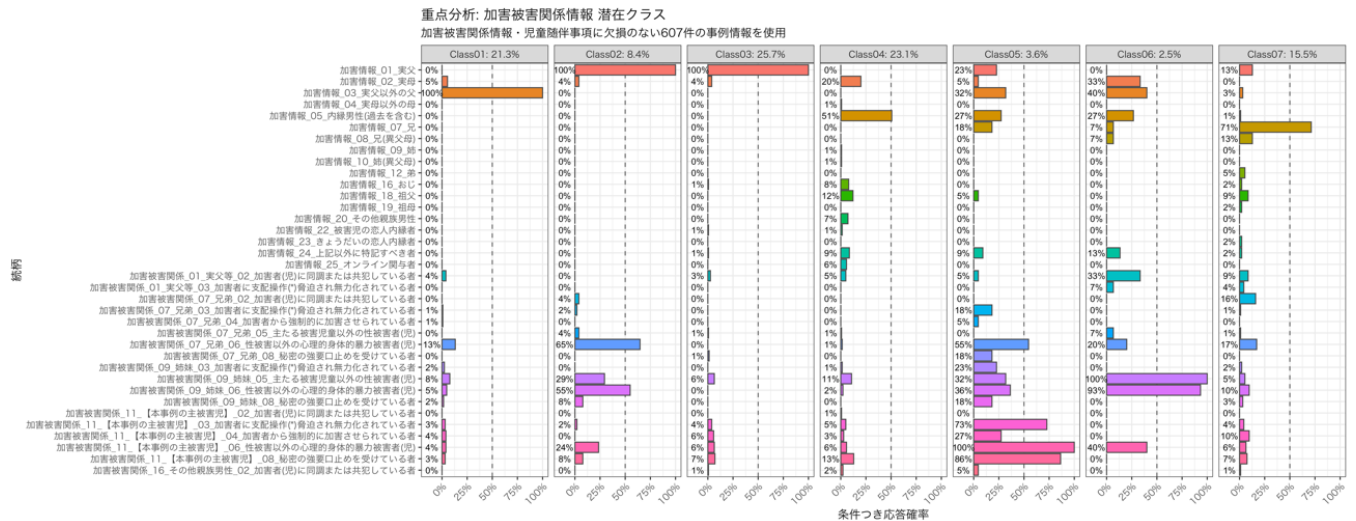


図9.2 加害被害等関係情報に関する潜在クラス分析の結果

クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表9.2に整理する。

表9.2 加害被害等関係情報に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	実父以外 父_限定加 害	21.3%	実父以外の父によ る加害	一定数実母も加害。被害児童以 外のきょうだいに、心身暴力ま たは性暴力がある場合がある	
02	実父_きょ うだい等 全体(性)暴 力	8.4%	実父による加害	稀に実母も加担。被害児童だけ でなく、兄弟に心理的・身体的 暴力、姉妹に性暴力または心理 的・身体的暴力が及ぶ	
03	実父_限定 加害	25.7%	実父による加害	稀に実母も加担。一定数実母も 加害に加担。稀に、姉妹にも同 時に被害がある	

04	内縁者外部親族加害	23.1%	実母の内縁男性を中心として、おじ、祖父、その他の親族、きょうだいの内縁者による加害	実母が加害に加担している場合が一定数存在する	少数である姉や妹による加害事例が含まれている
05	全体暴力操作_男性加害	3.6%	被害児童やきょうだい全体に対する暴力統制、支配・操作を特徴とする	実父、実父以外による父、実母の内縁男性、きょうだいなどが加害構造に含まれる	
06	実母中心_姉妹等全体性暴力	2.5%	実母とその内縁男性、実父以外の父による加害	被害児童だけでなく、姉妹に対する性暴力と心理的・身体的暴力がある	クラス構成比が最も小さい
07	きょうだい中心加害	15.5%	主に兄・兄(異父母)による加害	実母や祖父などの加害情報も一部含まれる。兄弟が共犯関係にある場合を含む	兄弟姉妹に心理的・身体的暴力が及んでいる場合も一定数

ここで、より加害関係の構造を詳細に把握するために、加害者情報のみに絞った潜在クラス分析を実施した。加害者に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは6 クラスの場合(AIC = 6859.33)であり、各クラス内に含まれる事例数が2 例以上存在したため、6 クラスの結果を採用した。結果を図 9.2-2 に示す。

重点分析: 世帯内の加害発生パターン 潜在クラス

加害者情報に欠損のない644件の事例情報を使用

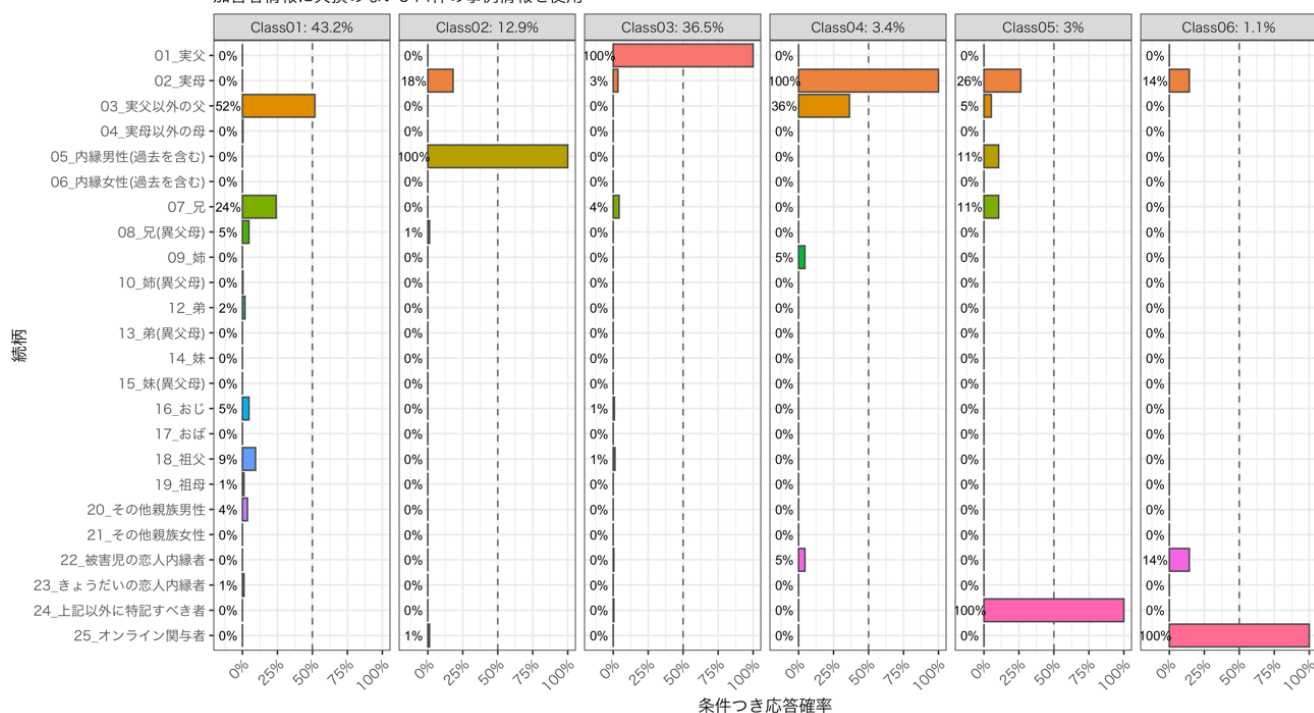


図 9.2-2 加害者に関する潜在クラス分析の結果

クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

その結果、クラス 02(構成比 12.9%)では、母の内縁男性による加害事例がまとめられたが、実母が 18%程度加害に加担している構造が抽出された。また、クラス 06(構成比 1.1%)のオンライン関与者が加害者である事例群については、実母が 14%程度加害に加担している、あるいは被害児童の恋人・内縁者が 14%程度加害に加担している構造が抽出された。実母が主たる加害者となる事例群(クラス 04、構成比 3.4%)では、同時に実父以外の父や、姉、恋人内縁者による加害も同時に発生していることが示された。

9.3.4 男性養育者の職業区分と他の養育者に対する態度

男性養育者の他の養育者に対する態度に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 5 クラスの場合(AIC = 3838.99)であり、各クラス内に含まれる事例数が 2 例以上存在したため、5 クラスの結果を採用した。図 9.3 に示す。

重点分析: 男性養育者の職業区分と他の養育者態度情報 潜在クラス
職業区分と他の養育者態度情報に欠損のない704件の事例情報を使用

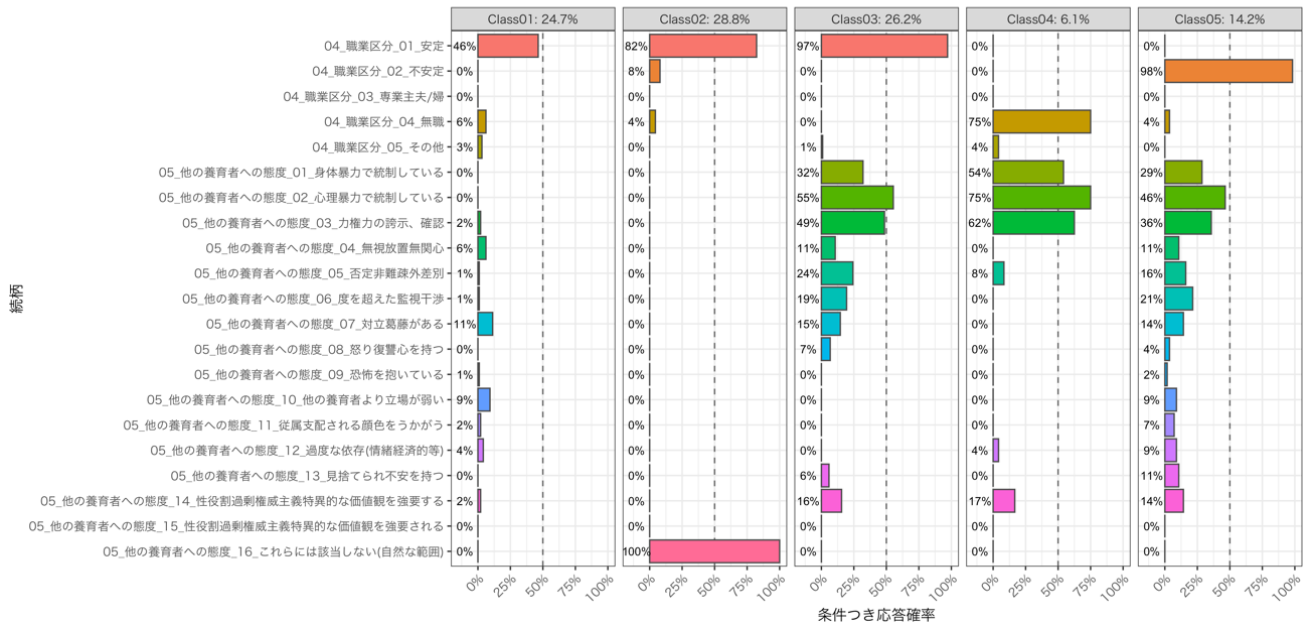


図 9.3 男性養育者の職業区分と
他方の養育者に対する態度に関する潜在クラス分析の結果
クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

父子家庭など、他方の養育者が家庭内にいない場合は、他方の養育者に対する態度情報は無回答となるため、
当該箇所について、本解析では「すべて該当なし」として処理されている。

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.3 に整理する。

表 9.3 男性養育者の職業区分と他方の養育者に対する態度に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	特記なし_情報不足	24.7%	「自然な範囲」への該当はなく、その他一部の項目に該当するが、明確な特徴はない		
02	職業安定_態度自然	28.8%	職業は安定していることが多く、他の養育者に対する態度は自然なものと積極的に判断される		
03	職業安定_暴力統制	26.2%	職業は安定している。心理的・身体的な暴力統制と力・	無視・無関心、否定・差別・阻害、度	一定数、性役割や過剰な権威主義、

	無関心差別等		権力の誇示を中心とした態度をもつ	を超えた監視などに該当することもある	特異的な価値観の強要がある
04	無職_暴力統制	6.1%	75%が無職であり、心理的・身体的な暴力統制と力・権力の誇示を中心とした態度をもつ	無視・無関心、度を超えた監視等の所見には該当が報告されない	一定数、性役割や過剰 14.2%な権威主義、特異的な価値観の強要がある
05	職業不安定_暴力無関心差別または立場が弱い	14.2%	職業は不安定。心理的・身体的な暴力統制と力・権力の誇示を中心とした態度をもつ場合や、対立・葛藤と他方の養育者より立場が弱い場合の混合		一定数、性役割や過剰な権威主義、特異的な価値観の強要がある

9.3.5 女性養育者の職業区分と他の養育者に対する態度

女性養育者の他の養育者に対する態度に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 8 クラスの場合(AIC =4818.28)となったが、クラス内に含まれる事例数が 1 例のみという結果が含まれたため、次に AIC の値が低い 7 クラス(AIC = 4841.10)の結果を採用した。図 9.4 に示す。

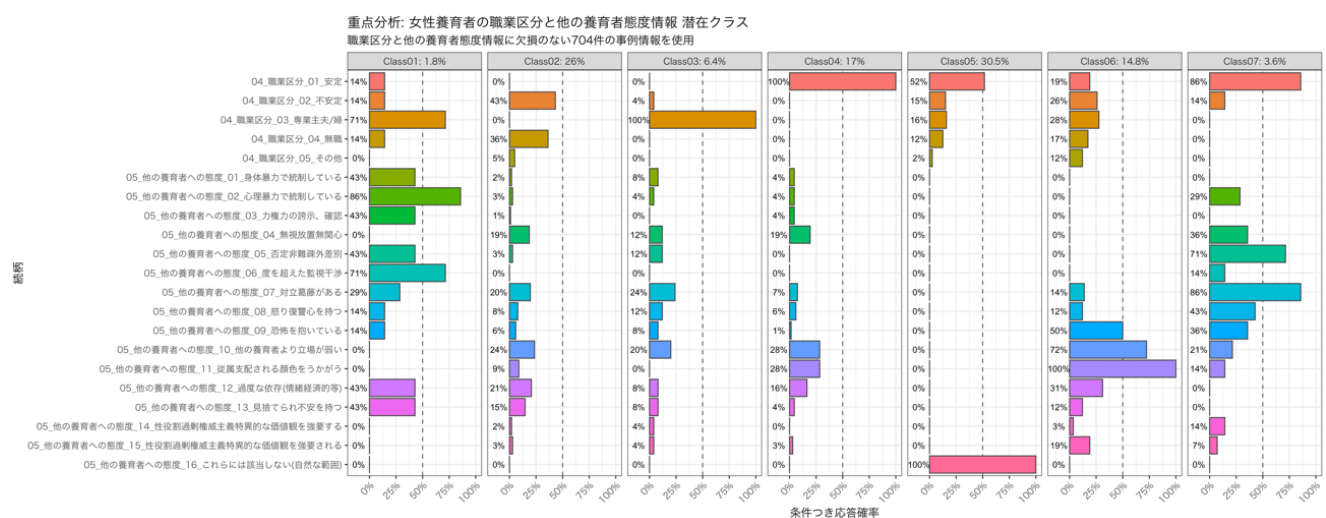


図 9.4 女性養育者の職業区分と他方の養育者に対する態度に関する潜在クラス分析の結果

クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

母子家庭など、他方の養育者が家庭内にいない場合は、他方の養育者に対する態度情報は無回答となるため、

当該箇所について、本解析では「すべて該当なし」として処理されている。

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.4 に整理する。

表 9.4 女性養育者の職業区分と他方の養育者に対する態度に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	暴力統制 または監視 対立差別_主婦経 済依存	1.8%	他方の養育者に対する心理暴力統 制や度を超えた監視・干渉		もっとも構 成率が少な い
02	職業無職 または不 安定_特定 所見のみ に該当	26.0%	無職または不安定な職業。他方の 養育者に対して、無関心や対立、 立場が弱い等の特徴に該当するこ とがあるが、いずれか一つ等、該 当数は相対的に少ない		クラス 02・ 03 と職業以 外で傾向が 類似してい る
03	専業主婦_ 特定所見 のみ	6.4%	無職または不安定な職業。他方の 養育者に対して、無関心や対立、 立場が弱い等の特徴に該当するこ とがあるが、いずれか一つ等、該 当数は相対的に少ない		クラス 02・ 04 と職業以 外で傾向が 類似してい る
04	職業安定_ 立場がや や低い	17.0%	職業は安定。他方の養育者に対し て、立場が弱い・顔色を伺う等の 特徴に該当することがあるが、い ずれか一つ等、該当数は相対的に 少ない		クラス 02・ 03 と職業以 外で傾向が 類似してい る
05	自然な範 囲	20.5%	他方の養育者に対する態度に特記 すべき所見がない。自然な範囲と 形容される。	職業は安定が 相対的に多い が、不安定・ 無職・専業主 婦等を問わな い	クラス構成 比はもっと も大きい。
06	被支配と 恐怖	14.8%	他の養育者に対する恐怖心、立場 が弱い、顔色をうかがう等が主た る特徴	職業区分の構 成比はおよそ 均等。性役割	他方の養育 者に対して 心身暴力等

				や過剰な権威主義の強要を受けている割合が他のクラスと比較してもっとも多い	を振るう、否定・非難・差別等に全く該当がない
07	職業比較 的安定_避難対立復讐恐怖	3.6%	職業は安定がもっとも多く、経済を含む依存がない。対立葛藤、否定・非難・差別等の態度を主たる特徴とする	クラス 01 と異なり、身体的暴力や力・権力の誇示は認められない	恐怖心や立場が弱いなどに該当がある場合がある。構成比はクラス 01 に次いで 2 番目に小さい

9.3.6 男性養育者の被害児童に対する態度

男性養育者の被害児童に対する態度に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 3 クラスの場合(AIC =5260.70)となった。クラス内に含まれる事例数が 2 例以上含まれたため、3 クラスの結果を採用した。図 9.5 に示す。

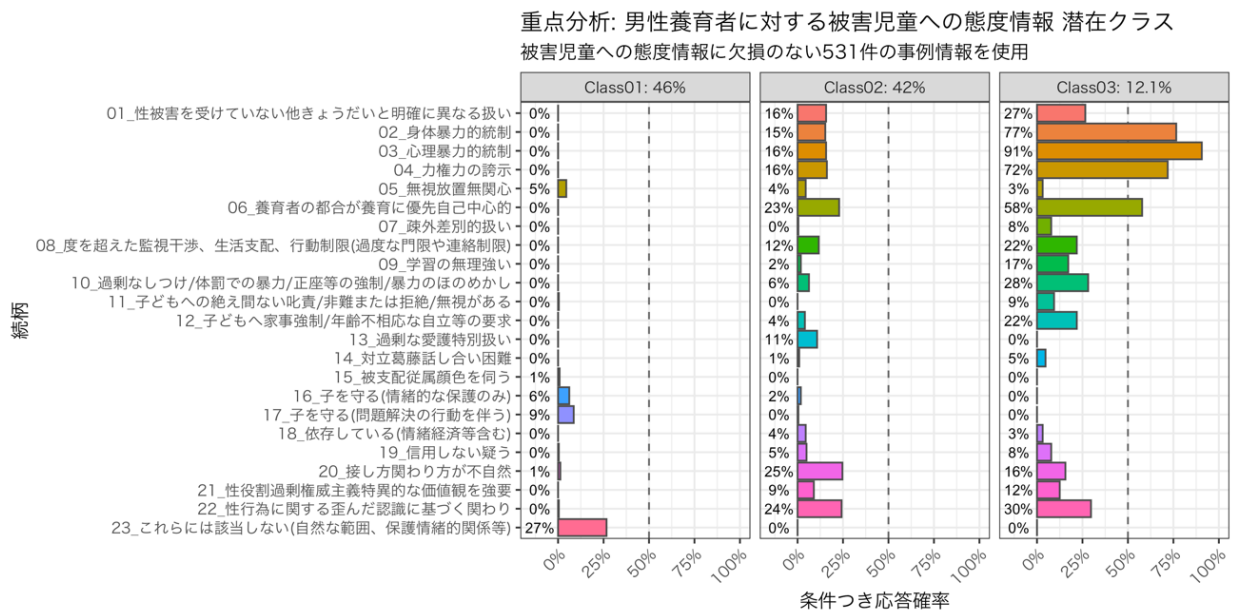


図 9.5 男性養育者の被害児童に対する態度に関する潜在クラス分析の結果

クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.5 に整理する。

表 9.5 男性養育者の被害児童に対する態度に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	自然な範囲_情緒保護問題解決	46%	情緒保護や問題解決、自然な範囲に該当	問題所見に明確な該当がない	クラス構成比は最も多い
02	準暴力性_過剰愛護	42%	心理的・身体的暴力や力の誇示、自己中心性に該当がある場合があるが、クラス 03 と比較して該当率が低い。他方、唯一、過剰愛護・被害児童の特別扱いに該当がある	関わり方が不自然と観察されることが最も多い	心理的・身体的暴力等だけでなく、過剰な愛護等を伴う支配と形容されうる
03	純粹暴力支配統制	12.1%	心理的・身体的暴力や力の誇示、自己中心性に大半が該当	行動制限や学習の無理強い、年齢不相応な自立の強要などを伴う場合もある	過剰な愛護は伴わない。暴力的な支配と形容されうる

9.3.7 女性養育者の被害児童に対する態度

女性養育者の被害児童に対する態度に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 6 クラスの場合(AIC =4575.16)となった。クラス内に含まれる事例数が 2 例以上含まれたため、当該結果を採用した。図 9.6 に示す。

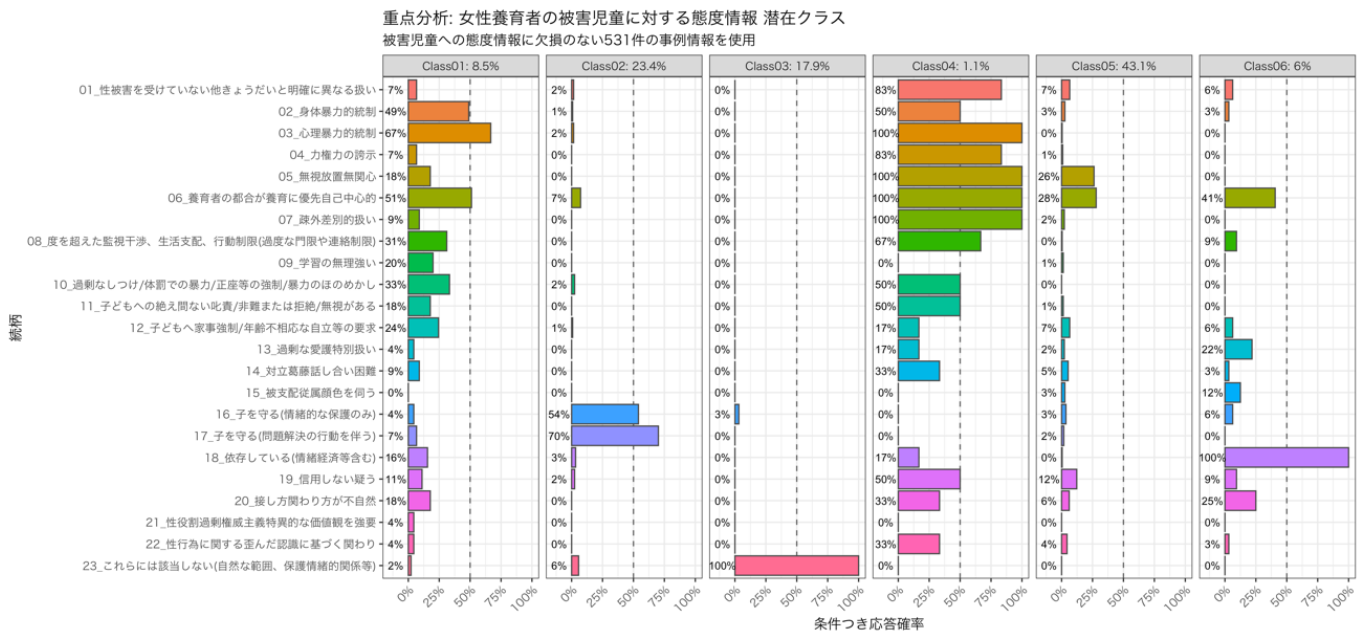


図 9.6 女性養育者の被害児童に対する態度に関する潜在クラス分析の結果

クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.6 に整理する。

表 9.6 女性養育者の被害児童に対する態度に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	心身暴力 統制	8.5%	心理的・身体的暴力と自己中心性、行動制限や監視、学習の無理強い等が目立って散見される	クラス 04 とは異なり、きょうだい間で明確に異なる扱いは該当率が低い	問題解決の行動は該当がない
02	保護・問題解決	23.4%	情緒的な保護と問題解決のいずれかまたは両方を取る。		保護機能が高いと考えられる
03	自然な範囲	17.9%	自然な範囲と積極的に形容される	その他の問題所見に該当がない	保護機能が高いとは積極的に記述されない

04	被害児童のみ差別的扱い_心身暴力統制	1.1%	きょうだい間で差別的扱いがある。心理的・身体的暴力や無視・無関心・放置、行動制限等の問題のある関わりが多重に併存する。	クラス 01 と比較してきょうだい間で明確に異なる扱いがある。性的行為に関する歪んだ認識や、子どもへの不信なども伴う。	クラス構成率は最も低い。問題解決の行動は該当がない
05	無関心と自己中心	43.1%	他の特記所見はないが、無関心・放置・無視や自己中心的な関わりが目立つ	情緒的な保護や問題解決行動が伴うことはまれ	
06	依存と自己中心_不自然過剰愛護	6%	子どもへの依存が顕著	不自然な関わり方、過剰愛護、子どもからの支配、顔色を伺う、自己中心的な振る舞い等が散見される	問題解決の行動は該当がない

9.3.8 男性養育者に対する被害児童の評価・感情

男性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 7 クラスの場合(AIC =4084.70)となった。しかし、クラス内に含まれる事例数が 1 例の場合を含んでいたため、次に AIC の値が小さい 6 クラス(4113.28)を採用した。結果を図 9.7 に示す。

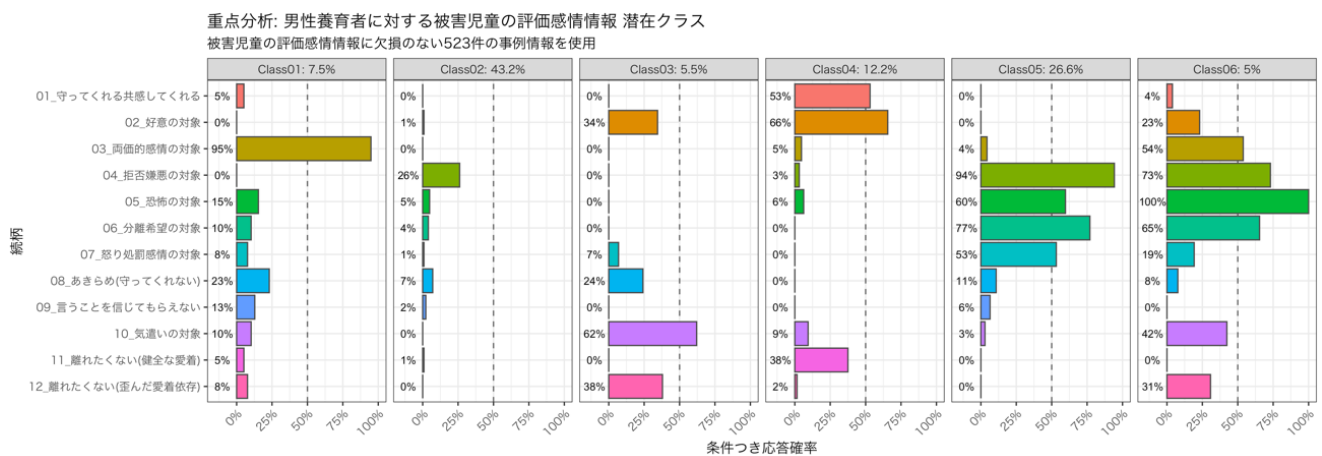


図 9.7 男性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する潜在クラス分析の結果
クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.7 に整理する。

表 9.7 男性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	両価的感情 の対象	7.5%	「両価的」と形容される	拒否や嫌悪、恐怖、諦めなどの明確な感情に該当することは相対的に少数	
02	嫌悪感のみ	43.2%	明確な評価・感情は観測されず、嫌悪感のみを伴うことが相対的に多い	諦めや恐怖、分離希望の対象と報告されることもある	クラス構成比が最も大きい
03	好意気遣いと非健全依存	5.5%	好意や気遣い、歪んだ愛着依存関係を特徴とする	両価的感情や、恐怖、拒否、分離希望といった評価・感情は報告されない	クラス 06 に次いで 2 番目に構成比が小さい
04	保護と好意 _健全愛着	12.2%	好意が中心。保護・共感が半数程度観測され、健全な愛着関係があると報告されることも多い	一部、恐怖の対象でもあると報告される	
05	拒否嫌悪、 恐怖と憎しみ	26.6%	拒否と嫌悪、恐怖や分離希望が中心。処罰感情の対象となる割合が全クラスで最も高い	好意や保護、愛着関係に一切の該当がない	クラス 02 に次いて、二番目に構成比が大きい
06	拒否嫌悪、 恐怖憎しみ と気遣い・ 非健全依存	5%	恐怖や拒否・嫌悪、分離希望の対象と評価される一方で、気遣いや歪んだ愛着関係が併存することがある	好意の対象とされる状況の併存が 23%程度認められる	全クラスで最も構成比が小さい

9.3.9 女性養育者に対する被害児童の評価・感情

女性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 6 クラスの場合(AIC =4572.98)となった。クラス内に含まれる事例数はすべて 2 例以上含まれていたため、当該結果を採用した。図 9.8 に示す。

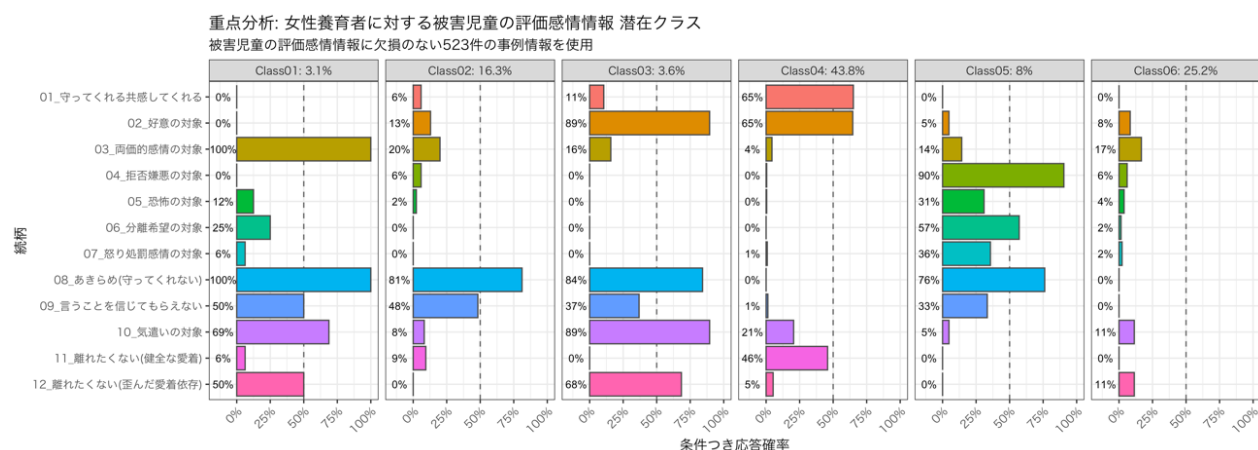


図 9.8 女性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する潜在クラス分析の結果
クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.8 に整理する。

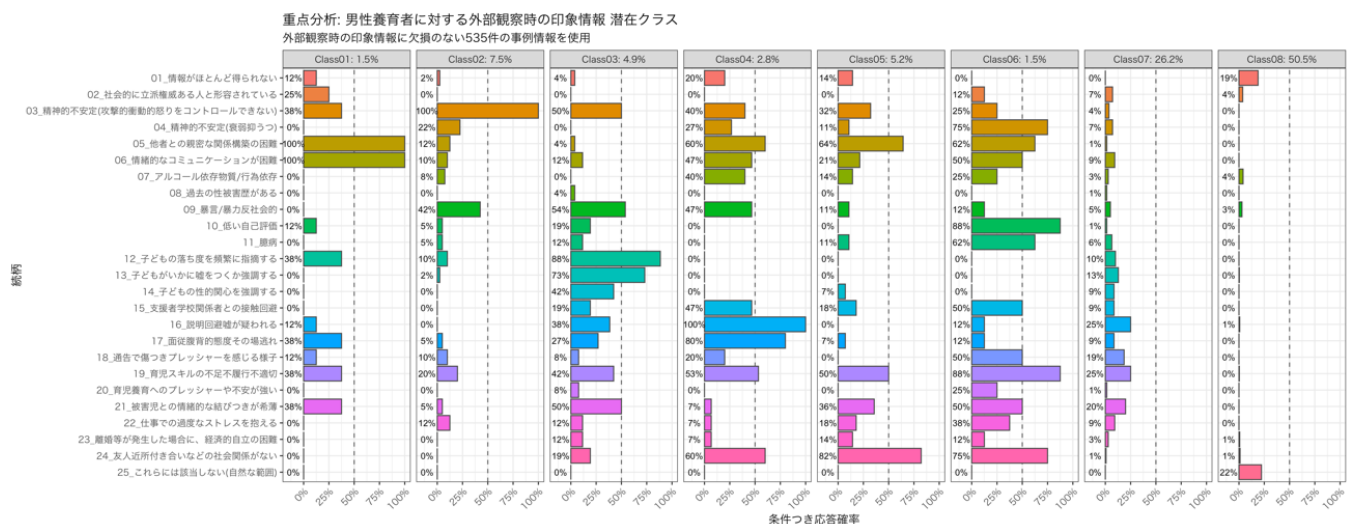
表 9.8 女性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	両価的_あきらめ気遣い_依存または分離希望	3.1%	あきらめと両価的感情の対象であり、半数以上で言うことを信じてもらえない、気遣いの対象、歪んだ愛着依存がある	恐怖や分離希望の対象と評価される場合も一定数ある。好意の対象ではない	全クラスの中で構成比が最も小さい
02	あきらめ_信じてもらえない	16.3%	あきらめ、守ってくれないという評価が中心	分離希望や処罰感情は抱かれない。歪んだ愛着関係には該当がない	

03	好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	3.6%	好意の対象であることが大多数でありながら、保護や共感はほとんど認められず、気遣いと諦め、歪んだ愛着関係と形容される	健全な愛着関係があるとは報告されない	クラス 01 に次いで、二番目に構成比が小さい
04	保護と好意_健全な愛着	43.8%	守ってくれる、共感してくれる、健全な愛着という評価が中心	気遣いの対象となっている場合もある	全クラス中、最も構成比が大きい。
05	拒否嫌悪恐怖_あきらめと分離希望	8%	拒否嫌悪、恐怖、分離希望あきらめなど、否定的評価が縦走する。保護や共感、愛着の関係に該当はない	拒否と嫌悪感は他のクラスにはほとんど認められない	
06	特記所見なし	25.2%	好意、あるいは拒否嫌悪など、特記する特徴群はないが、保護・共感の関係は該当がない。		クラス 04 に次いで二番目に構成比が大きい

9.3.10 男性養育者に関する外部観察情報

男性養育者の外部観察情報等に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 8 クラスの場合(AIC =6179.95)となった。クラス内に含まれる事例数はすべて 2 例以上含まれていたため、当該結果を採用した。図 9.9 に示す。



クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.9 に整理する。

表 9.9 男性養育者の外部観察情報等に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	親密な関係・情緒的コミュニケーション困難	1.5%	他者との親密な関係構築の困難と、情緒的コミュニケーションの困難に該当	「立派な人」と形容される場合、衝動性・怒りのコントロール困難が伴う場合がある。その他、子どもの落ち度を指摘する、その場逃れ、子どもとの情緒的結びつきが希薄などにも該当する場合がある	クラス 06 と共に、全クラスで最も構成比が小さい
02	衝動的暴言暴力	7.5%	衝動性・怒りのコントロールができないことを主たる特徴とし、暴言・暴力・反社会性が 42%程度で認められる	子どもに対する他責性や、関係者への説明・接触回避等には特筆して該当がみとめられない。子どもとの情緒的な結びつ	

				きが希薄とは特別形容されない傾向	
03	反社会性_他責または印象操作	4.9%	子どもの落ち度を頻繁に指摘する、性的関心を強調する、子どもの嘘を強調するといった情報操作・他責性が主たる特徴	暴言暴力、反社会性や衝動性・怒りのコントロール困難に半数程度該当する。また、子どもの養育・情緒的な関係に乏しい例が半数程度ある	
04	反社会性_孤立と回避_物質依存等	2.8%	関係者との接触回避や、嘘・その場逃れの態度、社会的関係に乏しく孤立していることを主たる特徴とする	反社会性、暴言暴力、アルコール等の物質依存や行為依存が半数程度で随伴する。養育不履行も半数程度伴うが、子どもとの情緒的な結びつきが希薄とは形容されない傾向	クラス 01 および 06 に次いで、3 番目に構成比が小さい
05	社会的孤立_情緒コミュニケーションの困難	5.2%	社会関係が希薄、親密な関係構築の困難	クラス 04 に傾向は類似するが、反社会的側面や、嘘や回避は相対的に認められない	
06	衰弱と低い自己評価_養育能力不足_孤立と回避	1.5%	精神的な衰弱、低い自己評価、臆病、社会関係の希薄さで特徴付けられる	子どもとの情緒的な関係が希薄、仕事での過度なストレスを抱える、通告による傷つきやプレッシャーを抱えるといった特徴が他のクラスより該当率が高い	クラス 01 と共に、全クラスで最も構成比が小さい
07	特定の所見のみ	26.2%	いくつかの問題関連項目に該当するものの、明確な特徴がない	「自然な範囲」とは形容されない	クラス 08 に次いで二番目に構成比が大きい
08	自然な範囲	50.5%	問題項目にほとんど該当がなく、自然な範囲と形容される		全クラスで最も構成比が大きい

9.3.11 女性養育者に関する外部観察情報

女性養育者の外部観察情報等に関する潜在クラス分析の結果、AIC が最小となったのは 10 クラスの場合(AIC =7308.71)となった。クラス内に含まれる事例数は、すべて 2 例以上含まれていたため、当該結果を採用した。図 9.10 に示す。

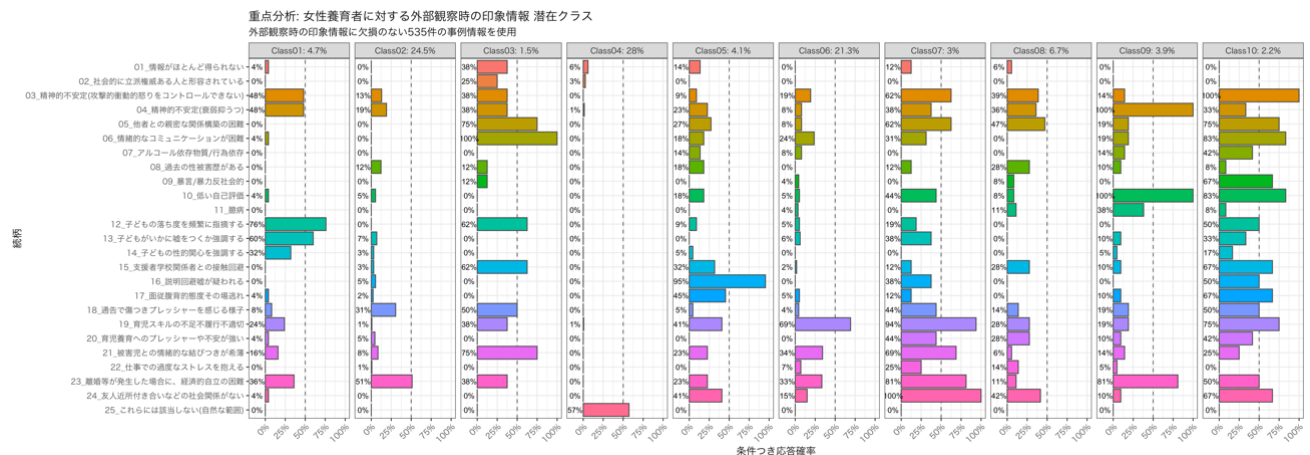


図 9.10 女性養育者の外部観察情報等に関する潜在クラス分析の結果

クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.10 に整理する。

表 9.10 女性養育者の外部観察情報等に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	精神不安定 _他責的_自 立困難	4.7%	子どもの落ち度を指摘、子どもの嘘、性的関心の強調など、他責的な側面を主たる特徴とする	衝動性または精神的衰弱、経済的自立の困難を伴う場合が半数程度	
02	自立困難_ 通告傷つき	24.5%	自立の困難と通告による傷つき、プレッシャーを主たる特徴とする。養育スキルの不足や不履行に該当することは減多にない	精神的な不安定さ、過去の性被害歴に該当する場合があるが、その他の特記すべき所見は相対的に少ない	クラス 04 に次いで構成比が大きい

03	親密情緒的 関係困難_ 社会的に立 派_情報不 足と接触回 避_子ども 非難養育不 履行不足_ 自立困難精 神不安定	1.5%	情緒的なコミュニケー ションの困難、他者と の親密な関係回避、被 害児童との情緒的な結 びつきが希薄であるこ とを最たる特徴とす る。子どもの落ち度を 頻繁に指摘する様子 や、関係者との接触回 避が過半数で該当	半数が通告による傷つ き・プレッシャーを報告 する。過去の性被害歴や 暴言暴力・反社会性に該 当する場合もある。他の クラスと異なり、「社会 的に立派」と形容される 場合がある	全クラス 中、構成 比が最も 小さい
04	自然な範囲	28%	問題関連所見に該当す ることはなく、自然な 範囲と形容される		全クラス 中、構成 比が最も 大きい
05	嘘と回避中 心_自立困 難養育不履 行不足_社 会的孤立	4.1%	関係者に対する嘘や説 明回避を最たる特徴と する。半数程度でその 場逃れの態度がある	養育スキルの不足や不履 行、社会的孤立、自立の 困難や過去の性被害歴等 に一定の該当がある	
06	養育不履行 不足_自立 困難_被害 児童との情 緒的關係希 薄	21.3%	養育スキルの不足・不 履行を最大の特徴とす る	被害児童との情緒的な結 びつきや、経済的自立の 困難が一定数で該当する	クラス 04、クラ ス 02 に次 いで 3 番 目に構成 比が大き い
07	孤立_自立 困難_養育 不履行不足 _衰弱と衝 動性_低い 自己評価_ 被害児童と	3%	社会的孤立と自立の困 難、養育スキルの不足 と不履行が最大の特 徴。被害児童との情緒 的關係の希薄さ、衝動 性、親密な関係の構築 困難が過半数で該当	養育へのプレッシャーや 低い自己評価、精神的衰 弱など、多重・複合的な 課題への該当がある	

	情緒的関係 希薄				
08	他責以外の 特定所見の み	6.7%	被害児童を責める、そ の場逃れの態度やアル コール依存等には該当 がないが、その他の問 題所見への該当が散見 される	過去の性被害該当率は 28%と他のクラスと比べ て最も高い	
09	衰弱と低い 自己評価_ 自立困難	3.9%	精神的な衰弱、低い自 己評価、自立の困難を 主たる特徴とする	他のクラスと比べて臆病 であると形容される割合 が最も高い。他の問題所 見に一定の該当が散見さ れる	
10	反社会的暴 言暴力_衝 動性_物質 乱用等_他 責と回避_ 社会的孤立	2.2%	衝動性、暴言・暴力、 反社会性を最たる特徴 とする	問題所見のほとんどすべ てに該当する傾向がある	

9.3.12 被害児童に随伴する問題と障害、養育環境・世帯情報

最後に、被害児童に随伴する問題あるいは障害と、養育環境・世帯情報に関する潜在クラス分析を実施した。その結果、AIC が最小となったのは5クラスの場合(AIC =11948.88)であった。クラス内に含まれる事例数は、すべて2例以上含まれていたため、当該結果を採用した。図9.11に示す。

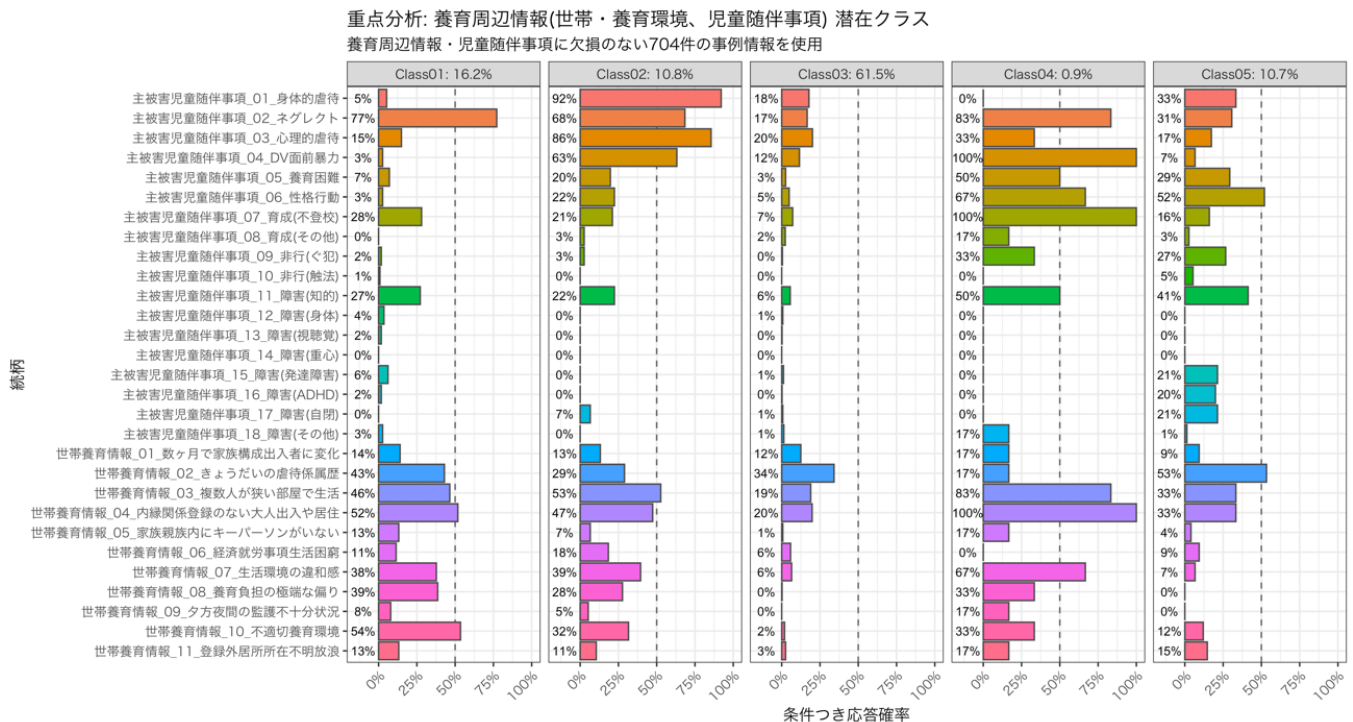


図 9.11 被害児童に随伴する問題あるいは障害と、
養育環境・世帯情報に関する潜在クラス分析の結果
クラス構成比とクラス別の条件つき応答確率

続いて、条件つき応答確率に基づくクラス別の(執筆者による)特徴記述を表 9.11 に整理する。

表 9.11 被害児童に随伴する問題あるいは障害と
養育環境・世帯情報に関する潜在クラスの要約

番号	識別名称	構成比	主特徴	副次特徴	備考
01	ネグレクト中心型	16.2%	ネグレクトへの該当率が顕著に高い。身体的虐待や心理的虐待が併存する場合もあるが一定のみ	きょうだいの虐待係属歴、極端に狭い部屋での生活、登録のない大人の出入りや不適切な養育環境等に半数程度該当	非行等の問題は認められない。不登校や障害が一定の割合で随伴する
02	心身暴力、ネグ	10.8%	身体的虐待、心理的虐待、DV・面前暴力、ネ	子どもの養育困難、性格行動問題、不登校、知的	

	レクト複 合		グレクトなど、複数の虐 待が複合する	障害、一部発達障 害が随伴する	
03	単一虐待_ 相対軽度	61.5%	全体的に問題所見に該当 する割合が低いものの、 各種虐待やきょうだいの 虐待係属歴に一定数の該 当がある	単一種別の虐待が 併存する事例で構 成されたクラスと 想定される	全クラス中、最も 構成比が大きい。 相対的に複合的な 該当率が低いただ けであって、重篤さ とは独立である
04	非身体暴 力、多重 問題	0.9%	身体的虐待のみに該当が ないが、DV・面前暴 力、ネグレクトで高い該 当率。子どもには不登校 があり、性格行動問題、 非行(ぐ犯)が伴うことが ある	半数程度に、子ど もの知的障害が報 告される。登録の ない大人の出入り や居住、複数人が 極端に狭い部屋で 生活している所見 が他と比べて多い	全クラス中、最も 構成比が小さい
05	虐待随伴_ 障害と性 格行動	10.7%	他のクラスと比較して、 発達障害(自閉/ADHD)へ の該当報告率が唯一高 い。子どもの知的障害や 性格行動上の問題も半数 程度で認められる。非行 (ぐ犯)にも一定の該当が ある	障害単体ではな く、他の虐待種別 やきょうだいの虐 待係属歴との併存 がうかがわれる	

9.3.13 子どもの家庭内性被害の発生パターンに関する記述的整理

ここまで、家庭居住者や加害者情報、養育者情報等の類型を解析的に求め、関係項目の該当パターンをいくつかの種類にそれぞれ要約した。本節では、養育者や家庭関係情報の組み合わせを求め、子どもの家庭内性被害の被害発生パターンの抽出を試みた。

組み入れ基準を満たした 704 件の事例について、各種潜在クラスに重複のない組み合わせを被害内容と主たる被害児童の発覚時年齢区分(未就学、小学校低学年、小学校高学年、中学生以上の 4 区分)集計により求めたところ、704 件の組み合わせが得られた(組み合わせに関する重複は確認されたなかった)。ここで、全ての組み合わせについて掲載することは叶わないため、各潜在クラス

のいずれにも「欠損」ラベルがなく、その組み合わせがユニークとなった 293 件の被害発生状況を、学齢区分および被害内容と共に表 9.12 に示す。なお、表 9.12 に含まれる内容は、男性養育者および女性養育者、共に所見の得られた事例のみとなっている。したがって、父子家庭・母子家庭での発生被害については掲載されていない(ただし、母子家庭で母の内縁男性が居住し、実質的に男性養育者として所見が得られている場合は、情報が含まれている)。ひとり親家庭での被害発生については、別途の考察が必要となる(第 17 章)。

表 9.12-1 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実母SF_ 親族同居 あり	実父以外 父_限定 加害	特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	両面的_あき らめ気遣い、 依存または 分離希望	特定の所見のみ	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・その他
		職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲_情 緒保護問題 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ 拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意 健全愛着 特記所見な し	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	未就学	身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	精神的_不安定他責 的_自立困難	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	口腔性交・身体 接触・ビデオ映 像/写真の被写体 にする
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	精神的_不安定他責 的_自立困難	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	性器性交・身体 接触・ビデオ映 像/写真の被写体 にする・着替え や入浴を覗く
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	純粹暴力支 配統制	心身暴力統制	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	反社会性_他責 または印象操 作	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的關係希薄	心身暴力放 置複合	小学校低学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く
	内縁者外 部親族加 害	職業安定_態度自 然	職業安定_立場がや や低い	自然な範囲_情 緒保護問題 題解決	心身暴力統制	気遣いと非 健全の依存	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性行為を見せる
	実母中心 姉妹等全 体性暴力	職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	純粹暴力支 配統制	心身暴力統制	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	反社会性_他責 または印象操 作	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的關係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く

表 9.12-2 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童への 態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容									
母子家庭 内縁男性	実父以外 父_限定 加害	職業安定_態度自然	自然な範囲	準暴力性_過剰愛護	自然な範囲	嫌悪感のみ	特記所見なし	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相対軽度	小学校高学年	身体接触									
	実父_限定 加害	特記なし情報不足	職業無職不安定_特定所見のみ	準暴力性_過剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	衝動的暴言暴力	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相対軽度	中学生以上	身体接触									
		特記なし情報不足	職業比較的安定_非難対立復讐恐怖	準暴力性_過剰愛護	自然な範囲	保護と好意_健全愛着	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	他責以外の特定所見のみ_過去の性被害	単一虐待_相対軽度	中学生以上	肛門性交・性的なビデオ本等を見せる									
		職業不安定_暴力無関心差別または立場が弱い	職業安定_立場がやや低い	準暴力性_過剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみと気遣い依存	保護と好意_健全愛着	社会的孤立情緒コミュニケーション困難	自然な範囲	単一虐待_相対軽度	小学校低学年	性器性交・身体接触									
	内縁者外部親族加害	特記なし情報不足	暴力統制または監視対立差別_主婦経済依存	自然な範囲_情緒保護問題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	両面的_あきらめ気遣い_依存または分離希望	自然な範囲	親密情緒関係困難_社会的に立派_情報不足と接触回避_子ども非難養育不履行不足_自立困難精神不安定	虐待随伴障害性格行動	中学生以上	ビデオ映像/写真の被写体にする									
													保護問題解決	嫌悪感のみ	特記所見なし	自然な範囲	精神的_不安定他責的_自立困難	虐待随伴障害性格行動	中学生以上	身体接触・性的なビデオ本等を見せる	
																					無関心と自己中心
			気遣いと非健全の依存	好意気遣い_あきらめと至んだ愛着依存	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	虐待随伴障害性格行動	中学生以上	身体接触・ビデオ映像/写真の被写体にする												
										依存と自己中心_不自然過剰愛護	嫌悪感のみ	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	ネグレクト中心型	中学生以上	性器性交・口腔性交・身体接触・ビデオ映像/写真の被写体にする・性行為を見せる・性的なビデオ本等を見せる					
																	無関心と自己中心	嫌悪感のみ	自然な範囲	親密情緒関係困難_社会的に立派_情報不足と接触回避_子ども非難養育不履行不足_自立困難精神不安定	心身暴力放置複合
			職業安定_立場がやや低い	自然な範囲_情緒保護問題解決	無関心と自己中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信じてもらえない	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄												
	職業安定_立場がやや低い									準暴力性_過剰愛護	依存と自己中心_不自然過剰愛護	両面的感情の対象	特記所見なし	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	虐待随伴障害性格行動					
																	職業安定_立場がやや低い	純粋暴力支配統制	無関心と自己中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信じてもらえない

(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

298

表 9.12-4 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成		加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
母子家庭 内縁男性	内縁者外 部親族加 害	特記なし情報不足	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触	
					無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	親密情緒関係困難_ 社会的に立派_情報 不足と接触回避_子 ども非難養育不履 行不足_自立困難精 神不安定	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触	
			被支配と恐怖	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	好意気遣い_ あきらめと 歪んだ愛着 依存	自然な範囲	反社会的暴言暴力_ 衝動物質乱用等_他 責回避_社会的孤立	心身暴力放 置複合	未就学	性行為を見せる	
					保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	衰弱低い自己評価_ 自立困難	ネグレクト 中心型	中学生以上	性行為を見せる	
					無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	精神的不安定他責 的_自立困難	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	身体接触	
					依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く	
			職業比較的安定_非 難対立復讐恐怖	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	保護と好意 健全愛着	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触・ビデオ映 像/写真の被写体 にする	
					自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く	
		職業安定_態度自然	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触	
					自然な範囲	両価的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	気遣いと非 健全の依存	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触	
					保護問題解決	両価的感情 の対象	両価的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・ビデオ映像/ 写真の被写体に する	
				準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	嫌悪感のみ	両価的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触	
					自然な範囲	気遣いと非 健全の依存	特記所見なし	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
					無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触	
					職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	ネグレクト 中心型
		職業安定_暴力統 制無関心差別	自然な範囲	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする	

表 9.12-5 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童へ の態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印 象情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
母子家庭 内縁男性	内縁者外 部親族加 害	職業安定_暴力統 制無関心差別	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	口性交・身体 接触
				純粹暴力支 配統制	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	好意気遣い_ あきらめと 歪んだ愛着 依存	衝動的暴言暴力	反社会的暴言暴力_ 衝動物質乱用等_他 責回避_社会的孤立	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
		無職_暴力統制	職業安定_立場がや や低い	純粹暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	未就学	性器性交・口腔 性交・身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	保護と好意_ 健全愛着	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・肛門 性交・性行為を 見せる
			職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	ビデオ映像/写真 の被写体にする ・着替えや入 浴を覗く
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く
	男性加害 全体暴力 操作	特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	ネグレクト 中心型	小学校高学年	性器性交・身体 接触
		特記なし情報不足	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	特記所見な し	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	被支配と恐怖	純粹暴力支 配統制	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	反社会性_他責 または印象操作	衰弱低い自己評価_ 自立困難	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・着替えや入 浴を覗く
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業比較的安定_非 難対立復讐恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・性行為を見 せる・性的なビ デオ本等を見せ る
	実母中心 姉妹等全 体性暴力	特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	嘘と回避中心_自立 困難養育不履行不 足_社会的孤立	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗 く・性行為を見 せる
	きょうだ い加害	特記なし情報不足	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交・身体 接触
		特記なし情報不足	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	衰弱低い自己評価_ 自立困難	ネグレクト 中心型	小学校高学年	性器性交・身体 接触
		特記なし情報不足	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	好意気遣い_ あきらめと 歪んだ愛着 依存	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触
		職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	保護と好意_ 健全愛着	保護と好意_ 健全愛着	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交

表 9.12-6 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居あり	実父_ きょうだい等全体 (性)暴力	職業安定_態度自然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	両価的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
		職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特 定所見のみ	純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見なし	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放 置複合	小学校低学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	気遣いと非 健全の依存	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交・口腔 性交・身体接 触・着替えや入 浴を覗く・性的 なビデオ本等を見せる
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
			職業比較的安定_非 難対立復讐恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	心身暴力放 置複合	中学生以上	性行為を見せ る・性的なビデオ 本等を見せる
	実父_限 定加害	無職_暴力統制	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	気遣いと非 健全の依存	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触
		特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	気遣いと非 健全の依存	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・身体 接触
			専業主婦_特定所見 のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	両価的感情 の対象	あきらめ_信 じてもらえない	特定の所見のみ	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
			職業安定_立場がや や低い	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
		職業安定_態度自然	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	特記所見なし	衝動的暴言暴力	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	気遣いと非 健全の依存	特記所見なし	特定の所見のみ	自然な範囲	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	性的なビデオ本 等を見せる・そ の他
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	あきらめ_信 じてもらえない	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
					保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	両価的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	心身暴力放 置複合	中学生以上	性器性交・身体 接触
				依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	衰弱低自己評価 _養育能力不足_ 孤立回避	衰弱低い自己評価 _自立困難	ネグレクト 中心型	小学校低学年	身体接触・性的 なビデオ本等を見せる

表 9.12-7 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童への 態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印 象情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居あり	実父_限 定加害	職業安定_暴力統 制無関心差別	専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	特記所見な し	反社会性_他責 または印象操作	精神的不安定他責 的_自立困難	心身暴力放 置複合	未就学	性行為を見せ る・性的なビデ オ本等を見せる
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	両価的感情 の対象	特記所見な し	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	心身暴力放 置複合	小学校低学年	性行為を見せ る・性的なビデ オ本等を見せる
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	両価的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
		無職_暴力統制	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	未就学	身体接触・着替 えや入浴を覗く
			被支配と恐怖	純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触
	内縁者外 部親族加 害	特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・性的 なビデオ本等を見 せる
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触
		職業安定_態度自 然	専業主婦_特定所見 のみ	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	保護問題解決	保護と好意_ 健全愛着	特記所見な し	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	NA
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	無関心と自己 中心	保護と好意_ 健全愛着	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	ビデオ映像/写真 の被写体にする
		職業安定_暴力統 制無関心差別	職業安定_立場がや や低い	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
	男性加害 全体暴力 操作	特記なし情報不足	職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	保護と好意_ 健全愛着	保護と好意_ 健全愛着	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	心身暴力放 置複合	小学校高学年	肛門性交・身体 接触
			被支配と恐怖	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	保護問題解決	両価的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	衰弱低い自己評価_ 自立困難	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触
		職業安定_暴力統 制無関心差別		純粋暴力支 配統制	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触・性行為を見 せる
	実母中心 姉妹等全 体性暴力	職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題 解決	保護問題解決	保護と好意_ 健全愛着	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	精神的不安定他責 的_自立困難	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする・着 替えや入浴を覗 く

表 9.12-7 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成		加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居あり	きょうだい 加害	特記なし情報不足	職業安定_立場がやや低い	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	虐待随伴障 害性格行動	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く	
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	保護と好意 健全愛着	特記所見なし	社会的孤立情緒 コミュニケーション困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	ビデオ映像/写真 の被写体にする	
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・身体 接触	
						特記所見なし	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触		
		職業安定_態度自然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	特定の所見のみ	精神的不安定他責 的_自立困難	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	口腔性交・身体 接触	
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	特定の所見のみ	精神的不安定他責 的_自立困難	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く	
				専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	両価的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
		無職_暴力統制	被支配と恐怖	純粋暴力支配 統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖 憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	虐待随伴障 害性格行動	小学校高学年	性器性交・口腔 性交・身体接触	
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	暴力統制または監視 対立差別_主婦経済 依存	純粋暴力支配 統制	心身暴力統制	拒否嫌悪恐怖 憎しみ	特記所見なし	衝動的暴言暴力	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被害	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交・身体 接触・その他	
			職業安定_立場がやや 低い	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	保護問題解決	保護と好意 健全愛着	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・その他	

表 9.12-8 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童への 態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実母SF、 親族同居 なし	実父以外 父_限定 加害	特記なし情報不足	暴力統制または監視 対立差別_主婦経済 依存	準暴力性_過 剰愛護	心身暴力統制	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	虐待随伴障 害性格行動	小学校低学年	身体接触
			職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	気遣いと非 健全依存	特記所見な し	社会的孤立情緒 コミュニケーション困難	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性行為を見せる
				無関心と自己 中心	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	両面的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	自然な範囲	嘘と回避中心_自立 困難養育不履行不 足_社会的孤立	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・口腔 性交
						拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	保護と好意_ 健全愛着	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	衰弱低い自己評価_ 自立困難	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・身体 接触・ビデオ映 像/写真の被写体 にする
				無関心と自己 中心	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
			専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	反社会性_他責 または印象操作	精神的不安定他責 的_自立困難	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交
			職業安定_立場がや や低い	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	特記所見な し	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触
			自然な範囲	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	両面的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
			職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
					無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	ネグレクト 中心型	小学校低学年	性器性交・身体 接触
					無関心と自己 中心	保護と好意_ 健全愛着	特記所見な し	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交・身体 接触
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	精神的不安定他責 的_自立困難	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
		職業安定_態度自 然	職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	気遣いと非 健全依存	両面的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	衰弱低自己評価 _養育能力不足_ 孤立回避	親密情緒関係困難_ 社会的に立派_情報 不足と接触回避_子 ども非難養育不履 行不足_自立困難精 神不安定	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触
				純粹暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	両面的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	反社会性_他責 または印象操作	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗 く・性的なビデ オ本等を見せ る・その他
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
					保護問題解決	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
						嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗 く・性的なビデ オ本等を見せる

表 9.12-9 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童への 態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容	
実母SF_ 親族同居 なし	実父以外 父_限定 加害	職業安定_態度自然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	あきらめ_信じてもらえない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相対軽度	中学生以上	身体接触	
					自然な範囲	嫌悪感のみ	好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相対軽度	小学校低学年	身体接触	
							保護と好意_健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相対軽度	中学生以上	身体接触	
							保護と好意_健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	単一虐待_相対軽度	中学生以上	身体接触	
							拒否嫌悪恐怖憎しみと気遣い依存	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相対軽度	小学校高学年	身体接触
				準暴力性_過剰愛護	保護問題解決	保護と好意_健全愛着	特記所見なし	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	単一虐待_相対軽度	中学生以上	身体接触	
						拒否嫌悪恐怖憎しみと気遣い依存	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相対軽度	小学校高学年	性器性交・身体接触	
					自然な範囲	両価的感情の対象	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相対軽度	中学生以上	性器性交・身体接触	
					無関心と自己中心	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	他責以外の特定所見のみ_過去の性被害	ネグレクト中心型	中学生以上	身体接触	
							両価的_あきらめ気遣い_依存または分離希望	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	単一虐待_相対軽度	中学生以上	性器性交・身体接触	
								拒否嫌悪恐怖憎しみ	好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	単一虐待_相対軽度	小学校高学年	身体接触・ビデオ映像/写真の被写体にする
									特記所見なし	自然な範囲	自然な範囲	虐待随伴障害性格行動	中学生以上
				純粋暴力支配統制	無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	あきらめ_信じてもらえない	特定の所見のみ	自然な範囲	心身暴力放置複合	小学校高学年	身体接触・着替えや入浴を覗く	

表 9.12-10 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童へ の態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印 象情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実母SF_ 親族同居 なし	実父以外 父_限定 加害	職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接触
					保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	衰弱低い自己評価_ 自立困難	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
				純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
					保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
			専業主婦_特定所見 のみ	純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	虐待随伴障 害性格行動	小学校高学年	身体接触
					無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	親密関係情緒コ ミュニケーショ ン困難	嘘と回避中心_自立 困難_養育不履行不 足_社会的孤立	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	心身暴力放 置複合	小学校高学年	性器性交・身体 接触・着替えや 入浴を覗く
					心身暴力統制	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	両面的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	反社会性_他責 または印象操作	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触・その 他
			自然な範囲	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・口腔 性交・身体接触
					無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	自然な範囲	虐待随伴障 害性格行動	小学校高学年	性行為を見せ る・性的なビデ オ本等を見せる
				純粋暴力支 配統制	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	心身暴力統制	保護と好意_ 健全愛着	特記所見な し	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	嘘と回避中心_自立 困難_養育不履行不 足_社会的孤立	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触・性行 為を見せる・そ の他
					無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	特記所見な し	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く
					依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	両面的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・肛門 性交・口腔性 交・身体接触
				純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	心身暴力放 置複合	小学校高学年	身体接触
			職業比較的安定_非 難対立復讐恐怖	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	気遣いと非 健全の依存	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交・口腔 性交・身体接触
			職業比較的安定_非 難対立復讐恐怖	純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	自然な範囲	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・性行為を見 せる

表 9.12-11 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童へ の態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印 象情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父以外 父_限定 加害	実父以外 父_限定 加害	無職_暴力統制	職業無職不安定_特 定所見のみ	純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	自立困難_通告傷 つき	心身暴力放 置複合	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・ビデオ映像/ 写真の被写体 にする・着替えや 入浴を覗く・性 行為を見せる・ 性的なビデオ本 等を見せる
		無職_暴力統制	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	反社会性_他責 または印象操作	精神的_不安定他責 的_自立困難	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	好意気遣い_ あきらめと 歪んだ愛着 依存	特定の所見のみ	精神的_不安定他責 的_自立困難	単一虐待_相 対軽度	未就学	身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	両面的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷 つき	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・肛門 性交・身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	好意気遣い_ あきらめと 歪んだ愛着 依存	特定の所見のみ	衰弱低い自己評価_ 自立困難	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	被支配と恐怖	純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	好意気遣い_ あきらめと 歪んだ愛着 依存	衰弱低い自己評価_ 養育能力不足_ 孤立回避	嘘と回避中心_自立 困難養育不履行不 足_社会的孤立	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	口腔性交・身体 接触・着替えや 入浴を覗く・性 行為を見せる
実母SF_ 親族同居 なし	内縁者外 部親族加 害	職業安定_態度自 然	自然な範囲	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷 つき	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
		職業安定_態度自 然	被支配と恐怖	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷 つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・その 他
		職業安定_暴力統 制無関心差別	職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	両面的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	身体接触
	男性加害 全体暴力 操作	特記なし情報不足	職業安定_立場がや や低い	純粋暴力支 配統制	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	反社会性_他責 または印象操作	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・着替えや入 浴を覗く・性的 なビデオ本等 を見せる
		職業安定_態度自 然	被支配と恐怖	純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	反社会性_他責 または印象操作	衰弱低い自己評価_ 自立困難	心身暴力放 置複合	中学生以上	性器性交・身体 接触・性行為を 見せる
		職業安定_暴力統 制無関心差別	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	衰弱低い自己評価_ 自立困難	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	自立困難_通告傷 つき	心身暴力放 置複合	小学校高学年	性器性交・身体 接触
	実母中心 姉妹等全 体性暴力	職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	性行為を見せる
		職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	気遣いと非 健全の依存	特記所見な し	自然な範囲	自立困難_通告傷 つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く
			専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	両面的感情 の対象	保護と好意_ 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷 つき	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	身体接触
きょうだ い加害	きょうだ い加害	職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自立困難_通告傷 つき	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	性器性交・口腔 性交・ビデオ映 像/写真の被写体 にする
		職業安定_暴力統 制無関心差別	被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷 つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・ビデオ映像/ 写真の被写体 にする

表 9.12-12 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成		加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居なし	実父_ きょうだい等全体 (性)暴力	特記なし情報不足	職業安定_立場がやや低い	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触・ビデオ映像/写真の被写体にする	
				純粋暴力支配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	衝動的暴言暴力	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
			被支配と恐怖	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	ネグレクト中心型	小学校低学年	身体接触	
		職業安定_態度自然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	自然な範囲	保護と好意_健全愛着	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔性交	
		職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	特記所見なし	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	心身暴力放置複合	中学生以上	性器性交・身体接触	
				準暴力性_過剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	未就学	着替えや入浴を覗く	
			職業安定_立場がやや低い	無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	特記所見なし	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触・着替えや入浴を覗く		
				準暴力性_過剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	社会的孤立情緒コミュニケーション困難	他責以外の特定所見のみ_過去の性被害	心身暴力放置複合	小学校高学年	性器性交・身体接触	
					自然な範囲	拒否嫌悪恐怖憎しみと気遣い依存	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・ビデオ映像/写真の被写体にする	
					無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	社会的孤立情緒コミュニケーション困難	自立困難_通告傷つき	心身暴力放置複合	小学校高学年	身体接触	
					拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替えや入浴を覗く		
				純粋暴力支配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	あきらめ_信じてもらえない	衝動的暴言暴力	自立困難_通告傷つき	心身暴力放置複合	中学生以上	口腔性交・身体接触・その他	
			自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	特記所見なし	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触	
			被支配と恐怖	準暴力性_過剰愛護	無関心と自己中心	気遣いと非健全の依存	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	衰弱低い自己評価_自立困難	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触・着替えや入浴を覗く	
						保護と好意_健全愛着	保護と好意_健全愛着	反社会性_孤立と回避_物質依存等	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	口腔性交・身体接触	
				純粋暴力支配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	心身暴力放置複合	中学生以上	性器性交・身体接触	
						好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	心身暴力放置複合	中学生以上	性器性交・身体接触	
				依存と自己中心_不自然過剰愛護	拒否嫌悪恐怖憎しみ	拒否嫌悪恐怖憎しみ	好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交	
						拒否嫌悪恐怖憎しみ	好意気遣い_あきらめと歪んだ愛着依存	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交	
			職業比較的安定_非難対立復讐恐怖	準暴力性_過剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	社会的孤立情緒コミュニケーション困難	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
				純粋暴力支配統制	無関心と自己中心	両価的感情の対象	あきらめ_信じてもらえない	親密関係情緒コミュニケーション困難	養育不履行不足_自立困難_被害児との情緒的關係希薄	ネグレクト中心型	中学生以上	身体接触・着替えや入浴を覗く	

表 9.12-13 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童へ の態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居な し	実父_ きょうだい等全体 (性)暴力	無職_暴力統制	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	口腔性交・身体 接触
							拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見な し	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
				純粋暴力支 配統制	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護		あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交
		職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	暴力統制または監視 対立差別_主婦経済 依存	準暴力性_過 剰愛護	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	保護と好意 健全愛着	両価的_あき らめ気遣い_ 依存または 分離希望	衰弱低自己評価 _養育能力不足_ 孤立回避	反社会的暴言暴力_ 衝動物質乱用等_他 責回避_社会的孤立	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
			自然な範囲	純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意_ 健全愛着	衝動的暴言暴力	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	保護と好意_ 健全愛着	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	嘘と回避中心_自立 困難養育不履行不 足_社会的孤立	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触・性行 為を見せる

表 9.12-14 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童へ の態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印 象情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居なし	実父_限 定加害	特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_情 緒保護問題解決	心身暴力統制	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	気遣いと非 健全の依存	特記所見なし	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・その他
			専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
			職業安定_立場がや や低い	自然な範囲_情 緒保護問題解決	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_健 全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
					無関心と自己 中心		特記所見なし	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
					依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	嫌悪感のみ	特記所見なし	衝動的暴言暴力	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
					依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	性器性交・身体 接触・着替えや 入浴を覗く
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえない	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	親密情緒関係困難_ 社会的に立派_情報 不足と接触回避_子 ども非難養育不履 行不足_自立困難精 神不安定	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く
		職業安定_態度自 然	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	心身暴力統制	両価的感情 の対象	両価的_あきら め_気遣い_依 存または分 離希望	特定の所見のみ	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・ビデオ映像/ 写真の被写体 にする・着替え や入浴を覗く・性 的なビデオ本等 を見せる
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	両価的感情 の対象	特記所見なし	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト 中心型	小学校高学年	性器性交・身体 接触・着替えや 入浴を覗く
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	特記所見なし	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	未就学	身体接触
			自然な範囲	自然な範囲_情 緒保護問題解決	自然な範囲	保護と好意_健 全愛着	保護と好意_健 全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・身体 接触
				保護問題解決	自然な範囲	両価的感情 の対象	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
						嫌悪感のみ	保護と好意_健 全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
						保護と好意_健 全愛着	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・身体 接触
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえない	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交・口腔 性交・身体接 触
						嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
							保護と好意_健 全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
				純粋暴力支 配統制	心身暴力統制	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放 置複合	小学校低学年	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする・着 替えや入浴を覗 く

表 9.12-15 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成		加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童への 態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情報	女性養育者 被害児童の 評価感情情報	男性養育者 外部観察時の印象 情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居なし	実父_限定加害	職業安定_暴力統 制無関心差別	暴力統制または監視 対立差別_主婦経済 依存	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	依存と自己中心_不自然過 剰愛護	気遣いと非 健全の依存	特記所見なし	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・身体 接触・その他	
				純粋暴力支配統制	被害児童のみ 差別的扱い_心身暴力統制	拒否嫌悪恐怖憎しみ	拒否嫌悪恐怖あきらめ 分離希望	反社会性_孤立 と回避_物質依存等	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・肛門 性交・口腔性交・身体接触	
				職業無職不安定_特定 所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・着替えや入浴を覗く
					準暴力性_過 剰愛護	心身暴力統制	嫌悪感のみ	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
			保護問題解決			拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・肛門 性交・口腔性交・身体接触	
			無関心と自己中心			気遣いと非健全の依存	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触	
			職業安定_立場がやや 低い	純粋暴力支配統制	無関心と自己中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信じてもらえない	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	着替えや入浴を覗く	
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	気遣いと非健全の依存	特記所見なし	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交	
					無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	特記所見なし	反社会性_他責または印象操作	衰弱低い自己評価_自立困難	ネグレクト中心型	小学校低学年	性器性交・身体 接触	
					無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	あきらめ_信じてもらえない	反社会性_孤立と回避_物質依存等	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	その他	
			職業安定_立場がやや 低い	純粋暴力支配統制	無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	拒否嫌悪恐怖あきらめ 分離希望	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	口腔性交	
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	虐待随伴障害性格行動	中学生以上	身体接触		
					自然な範囲	気遣いと非健全の依存	あきらめ_信じてもらえない	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	心身暴力放置複合	中学生以上	性器性交・身体 接触	
					無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト中心型	未就学	性器性交・口腔性交・身体接触・着替えや入浴を覗く	
			被支配と恐怖	自然な範囲_ 情緒保護問題解決	依存と自己中心_不自然過 剰愛護	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみ	保護と好意_健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
				職業比較的安定_非難 対立復讐恐怖	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	特記所見なし	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	心身暴力放置複合	小学校高学年	口腔性交・身体 接触
				職業無職不安定_特定 所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信じてもらえない	反社会性_孤立と回避_物質依存等	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト中心型	中学生以上	身体接触・その他
			職業安定_立場がやや 低い		準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己中心	拒否嫌悪恐怖憎しみ	あきらめ_信じてもらえない	親密関係情緒コミュニケーション困難	養育不履行不足_自立困難_被害児との 情緒的關係希薄	心身暴力放置複合	中学生以上	身体接触
					自然な範囲_ 情緒保護問題解決	無関心と自己中心	嫌悪感のみ	特記所見なし	特定の所見のみ	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
					準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	拒否嫌悪恐怖憎しみ	あきらめ_信じてもらえない	自然な範囲	自立困難_通告傷つき	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
			被支配と恐怖	純粋暴力支配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐怖憎しみと 気遣い依存	あきらめ_信じてもらえない	社会的孤立情緒コミュニケーション困難	他責以外の特定所見のみ_過去の性被害	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	

表 9.12-16 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童への 態度情報	女性養育者 被害児童への 態度情報	男性養育者 被害児童の 評価感情情 報	女性養育者 被害児童の 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印 象情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居なし	実父_限 定加害	職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	特記所見なし	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
				純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえない	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	未就学	身体接触
			専業主婦_特定所見 のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健 全愛着	衝動的暴言暴力	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	非身体暴力 多重問題	中学生以上	性器性交・身体 接触
				純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_健 全愛着	衝動的暴言暴力	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	両価的感情 の対象	保護と好意_健 全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
					無関心と自己 中心	保護と好意_健 全愛着	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	親密情緒関係困難_ 社会的に立派_情報 不足と接触回避_子 ども非難養育不履行 不足_自立困難精神 不安定	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触
						拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえない	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	ビデオ映像/写真 の被写体にする・着 替えや入浴を覗く
			被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・身体 接触・ビデオ映 像/写真の被写体 にする
					自然な範囲	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意_健 全愛着	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	自然な範囲	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触・着替 えや入浴を覗く
				純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	あきらめ_信 じてもらえない	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする・性 行為を見せる
	内縁者外 部親族加 害	特記なし情報不足	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	心身暴力統制	保護と好意_健 全愛着	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	ビデオ映像/写真 の被写体にする
				自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	性行為を見せる
			職業安定_立場がや や低い	準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえない	自然な範囲	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	性器性交・身体 接触・ビデオ映 像/写真の被写体 にする
		職業安定_態度自然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	保護と好意_健 全愛着	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
					依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	保護と好意_健 全愛着	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする・性 行為を見せる
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	反社会性_他責 または印象操作	精神的 불안定他責 的_自立困難	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・身体 接触
			職業安定_暴力統 制無関心差別	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	心身暴力統制	保護と好意_健 全愛着	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	親密関係情緒コ ミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的関係希薄	心身暴力放 置複合	中学生以上	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする
			職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意_健 全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	虐待随伴障 害性格行動	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く

表 9.12-17 個別の潜在クラス分析による抽出クラスとその組み合わせ(事例数=293 件)
(情報欠損により潜在クラスが求められなかった場合を含む事例レコードは除外)

家族構成	加害被害 関係情報	男性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	女性養育者 職業区分と他の養 育者態度情報	男性養育者 被害児童へ の態度情報	女性養育者 被害児童へ の態度情報	男性養育者 被害児童への 評価感情情 報	女性養育者 被害児童への 評価感情情 報	男性養育者 外部観察時の印 象情報	女性養育者 外部観察時の印象 情報	養育 周辺情報	主被害児童 発覚時年齢	被害内容
実父母親 族同居なし	男性加害 全体暴力 操作	職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	両面的感情 の対象	保護と好意 健全愛着	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする
				無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	好意気遣い、 あきらめと 歪んだ愛着 依存	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触
				純粋暴力支 配統制	保護問題解決	拒否嫌悪恐 怖憎しみ	保護と好意 健全愛着	自然な範囲	自立困難_通告傷つ き	心身暴力放 置複合	中学生以上	口腔性交・身体 接触・着替えや 入浴を覗く
	実母中心 姉妹等全 体暴力	職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	衝動的暴言暴力	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	身体接触
				自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	特記所見なし	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	ネグレクト 中心型	小学校低学年	肛門性交・口腔 性交・身体接 触・性的なビデ オ本等を見せる
	特記なし情報不足	職業安定_立場がや や低い	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	自然な範囲	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	ネグレクト 中心型	小学校低学年	口腔性交・性行 為を見せる
				自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校低学年	口腔性交・性行 為を見せる
				準暴力性_過 剰愛護	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	社会的孤立情緒 コミュニケーション 困難	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	ネグレクト 中心型	中学生以上	性器性交・身体 接触
				純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	性器性交
				自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	養育不履行不足_自 立困難_被害児との 情緒的關係希薄	虐待随伴障 害性格行動	中学生以上	身体接触
				職業安定_立場がや や低い	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	無関心と自己 中心	保護問題解決	保護と好意 健全愛着	保護と好意 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度
	職業安定_態度自 然	自然な範囲	自然な範囲	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	保護と好意 健全愛着	保護と好意 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・その 他
				無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触・ビデ オ映像/写真の被 写体にする	
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触	
				自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触	
				無関心と自己 中心	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	身体接触	
				保護問題解決	保護と好意 健全愛着	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触	
	職業安定_暴力統 制無関心差別	職業無職不安定_特 定所見のみ	職業無職不安定_特 定所見のみ	自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	保護問題解決	保護と好意 健全愛着	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	他責以外の特定所 見のみ_過去の性被 害	単一虐待_相 対軽度	未就学	性器性交・身体 接触
				準暴力性_過 剰愛護	保護問題解決	嫌悪感のみ	あきらめ_信 じてもらえ ない	特定の所見のみ	精神的不安定他責 的_自立困難	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触
				準暴力性_過 剰愛護	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	特定の所見のみ	衰弱低い自己評価 _自立困難	ネグレクト 中心型	中学生以上	身体接触
				自然な範囲_ 情緒保護問 題解決	自然な範囲	嫌悪感のみ	保護と好意 健全愛着	自然な範囲	自然な範囲	単一虐待_相 対軽度	小学校高学年	身体接触
				被支配と恐怖	準暴力性_過 剰愛護	心身暴力統制	保護と好意 健全愛着	あきらめ_信 じてもらえ ない	自立困難_通告傷つ き	単一虐待_相 対軽度	中学生以上	性器性交・口腔 性交・身体接 触・着替えや入 浴を覗く・性的 なビデオ本等 を見せる
				職業比較的安全_非 難対立復讐恐怖	純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	心身暴力放 置複合	小学校高学年	身体接触
	職業不安定_暴力 無関心差別または 立場が弱い	職業無職不安定_特 定所見のみ	職業無職不安定_特 定所見のみ	準暴力性_過 剰愛護	依存と自己中 心_不自然過 剰愛護	保護と好意 健全愛着	拒否嫌悪恐 怖あきらめ 分離希望	反社会性_孤立 と回避_物質依 存等	孤立自立困難養育 不履行_衰弱衝動的 低い自己評価_情緒 的關係希薄	ネグレクト 中心型	小学校高学年	身体接触・着替 えや入浴を覗く
				純粋暴力支 配統制	無関心と自己 中心	拒否嫌悪恐 怖憎しみと 気遣い依存	保護と好意 健全愛着	反社会性_他責 または印象操作	精神的不安定他責 的_自立困難	心身暴力放 置複合	小学校高学年	性器性交・身体 接触

9.4 考察

本章では、「家族構成」、「居住者情報」、「養育者情報」、「家族関係情報」、「被害児童の随伴問題・障害」や「養育環境」についての数量的なパターン抽出を実施した。本節では、特に数量的な解析結果(潜在クラス分析の結果)に焦点をあてた考察を行う。

9.4.1 家族構成・居住者に関する考察

家族構成・居住者に関する潜在クラス分析の結果、子どもの家庭内性被害の発生家庭における家族構成について、大きく5つのパターンが抽出された。

最も構成比が大きかったのは、親族の同居がほとんどない実父母家庭(ただし、一部父子家庭・母子家庭が含まれる。ひとり親家庭についての詳細な分析は第17章で行う)であり、全体の40.2%を占めた。これについて構成比が大きかったのは、きょうだい以外の親族が同居しない実母と実父以外の父が居住するステップファミリーであり(21.9%)、さらに、きょうだい以外の親族が同居しない母子家庭に、母の内縁男性が同居する形態(19.8%)が続いた。核家族化を背景に想定すれば、「親族が同居していない場合に性被害が発生しやすい」ことを単純に意味するものと解釈することは適切ではないと考えられるが、同時に、家庭内に加害の抑止機能を担いうる人物が少ないといった側面は、問題の発生や維持に影響を与える要因の一つとして指摘されうる。

親族が同居する例では、実父母家庭(ここには、父子家庭・母子家庭が一部含まれる)に祖父母等が同居する形態が多く、全体の15.4%を占めた。そして、最も構成比の小さいステップファミリーに祖父母等親族が同居する例(一部ひとり親家庭を含む)が2.7%を占めていた。

子どもに対する性被害は、あらゆる家族形態でその発生が認められることを前提にした眼差しが必要だと言える。

9.4.2 加害被害等関係情報に関する考察

加害被害関係に関する分析の結果は、典型的な加害構造をいくつか示した。主たる加害者は実父、実父以外の父、母親の内縁男性、きょうだい、祖父と続く。報告事例における被害児童のみに何らかの加害が及ぶ場合もあれば、母親やきょうだい、家庭内全体に心理的・身体的暴力が及ぶ場合や、性的暴力が伴う場合もみとめられた。

構成比が最も大きいパターンは実父による単独加害(まれに、実母の共犯を含む)であった(25.7%)。次いで、母の内縁男性、おじ、祖父、きょうだいの内縁者などの外部親族等に加えて、実母が加害側となるパターンが23%を占め、実父以外の父による加害(一部、実母や実父の共犯)が21.3%、きょうだい(兄・異父母の兄)を中心とする加害事例群が15.5%と続いた。加害者の続柄によってパターンが完全に分かれていない背後には、複数の立場の者からの加害が同時に発生しているケースが含まれていることを示すものと考えられる。

また、相対的に構成比の小さいクラスについては、加害者の続柄に加えて被害範囲の広さを特徴に持つパターンが抽出される結果となった。被害児童への性的暴力に加えて、身体的・心理的暴力が伴う場合もある。兄弟(異父母含む)への身体的・心理的暴力や姉妹への心理的・身体的・性的暴力が伴う場合も確認されている。被害児童やきょうだいに秘密の強要、支配、操作、脅迫が及ぶものなども含まれる。こういった家庭全体に及ぶ加害が発生するパターンにおいて、加害者は特定の続柄に集中するわけではなく、実父母、実父以外の父、母親の内縁者、きょうだい親族等、様々な例が含まれた。

子どもの家庭内性被害における加害者と加害構造については、いくつかの典型が存在することは指摘されうるが、実態は決して単純ではない。

なお、加害者の続柄単独の情報で潜在クラス分析を適用した結果からは、いくつか特徴的な共犯例があることが示された。実母と実父、実母と実父以外の父、実母と内縁者の共犯、実母ときょうだいの共犯などである。また、少数例ではあるが、オンライン関与者が主たる加害である場合において、実母や被害児童の恋人・内縁者が共犯関係にあるパターンも抽出されている。加害構造を見立てる場合には、居住者の範囲だけでなく、家庭外の関与者まで想像を広げる必要があると言えるだろう。

9.4.3 男性養育者の職業区分と他方の養育者に対する態度に関する考察

男性養育者の職業区分と他の養育者に対する態度については、5つのパターンに典型例が整理された。他の養育者に対する態度が自然な範囲と形容され、安定した職業である場合が多いパターンが最も多く、28.8%を占めた。明確な所見の少ない24.7%の例と合わせて約半数程度である。これと対照に、残りの約半数程度は、職業区分や他の養育者に対して何らかの課題を有するパターンが認められた。

職業が無職(6.1%)または不安定(14.2%)と判断されるパターンでは、その半数程度で他の養育者に対する心理的・身体的統制が発生しており、身体的暴力や度を越えた監視干渉など、複数の課題が認められた。特に職業状況が不安定な場合では、男性養育者が他の養育者よりも立場が弱い、依存しているといった所見に該当する例が、クラス構成比の中の1割程度に含まれていた。男性養育者が職業的に安定していない場合には、他方の養育者への暴力的関わりが多いという知見は特筆されうるものである。しかし、男性養育者が他の養育者に対して心理的・身体的な暴力統制を取る例は、安定した職業の場合においても存在しており、全体の4分の1を占めている(26.5%)ことも、同時に把握しておく必要があるだろう。なお、他の養育者に対する暴力的な態度を持つ男性養育者のパターンにおいて、その15%程度には過剰な性役割や特異的な性的価値観を強要する態度が認められている。性加害との関連が度々指摘されている概念ではあるが、心理的・身体的暴力、力・権

力の誇示といった観点に比べて該当率が小さい。外部から観察することが難しい等の様々な背景があるものと考えられる。

9.4.4 女性養育者の職業区分と他方の養育者に対する態度に関する考察

女性養育者の職業区分と他の養育者に対する態度は、男性養育者よりも抽出されるパターンが多い結果となった(AIC 最小は 8 クラス)。職業区分で「専業主婦」への該当率が一定数あることや、「立場が弱い」といった類型が一定の割合を持つことに起因するものと捉えられる。

他の養育者に対する女性養育者の態度が、「自然な範囲」とされるパターンが全体の 3 割程度を占めており、最も構成比が大きかった。職業区分によらず、一部の課題所見には該当するものの、全体的には比較的安定した関係が伺われるパターンは総じて半数程度あり、これらを合わせて 8 割程度を構成している。残りの 2 割程度には、暴力的な態度に関する項目への該当が目立つパターン(1.8%)、恐怖や顔色を伺うなど、弱い立場であることに関連する項目への該当が顕著なパターン(14.8%)、安定した職業で対立や葛藤、怒りや復讐心への該当が目立つパターン(3.6%)が含まれた。

加害被害関係に関する分析結果にも示されるとおり、加害者の暴力的行為が家族全体に及ぶ場合もあれば、そうでない場合もある。女性養育者にも暴力的被害および無力化される例も一定数確かに存在しているが、子どもの家庭内性被害のすべてでそのような構造があるわけではないことは、改めて認識する必要があるだろう。

9.4.5 男性養育者の被害児童に対する態度に関する考察

男性養育者の被害児童に対する態度については、最もクラス数が少なく、数量的に抽出されたパターンは 3 つにとどまった。「自然な範囲または該当情報がほとんどない」類型が 46%を占めた。そして、「心理的・身体的暴力や自己中心的な関わり」、「力・権力の誇示」等を中心に該当する典型暴力例が 12.1%となった。また、暴力的な関わりに関する項目に該当があるものは一部にとどまり、代わって「過剰な愛護」や「関わり方が不自然」といった項目への該当が典型暴力例より高いパターンが 42%を占めた。子どもに対して、「暴力的」あるいは「不自然な愛護」といった男性養育者の態度は、性被害の発生を懸念する上での一つの重要な観点になる可能性が指摘される。

9.4.6 女性養育者の被害児童に対する態度に関する考察

女性養育者の被害児童に対する態度については、男性養育者の場合と比べて抽出されたパターンが多く、6 つの類型が得られた。「情緒的保護」や「問題解決行動」を伴うパターン(23.4%)と「自然な範囲」と形容されるパターン(17.9%)が全体の 4 割程度を占め、「自己中心的あるいは無

視・放置・無関心」への該当が目立つパターンが全体の4割程度となった。「暴力的・差別的な関わり」への該当が中心となる例は全体の1割程度、そして「子どもに対する依存」を主たる特徴とする例が6%程度で認められた。

多くの例で非加害親となる女性養育者において、問題解決の行動をとることの叶う例は20%程度の事例で該当が報告される。一方で、当該結果から、女性養育者に見られる子どもへの態度に課題が認められることもあり、心身暴力やネグレクト、子どもへの依存などの類型があることが示されたものと考えられる。心身暴力やネグレクトなどの関わり方は、女性養育者と子どもとの間に距離を生じさせ、開示の抑制や閉鎖的な加害―被害関係の発生に係る要因のひとつになることが推測される。男性養育者の場合と同様、性被害の発生を懸念する上での重要な観点となるだろう。

9.4.7 男性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する考察

男性養育者に対して子どもが抱く感情や評価については、6つの類型が抽出された。大きくは「好意・安心」、「拒否・嫌悪」、「両価的」の方向性が示される結果となっている。両価的な評価については、「依存・歪んだ愛着関係・気遣いの対象」となる例もあり、拒否・嫌悪については「分離希望・怒り・処罰対象」を伴うパターンも示された。男性養育者が非加害親である場合の好意・安心や、男性養育者が加害親である場合の拒否・嫌悪的感情や怒りに加え、歪んだ愛着関係等には加害に随伴する支配・操作やグルーミングによる影響が推察される。歪んだ依存関係に起因して「被害児童が加害者との分離を希望しない」といった場合には、背景にある加害戦略等を含めた慎重な理解が求められることになるだろう。また、解析的に抽出されたパターンの中であっても、男性養育者に対して子どもが抱く評価や感情には様々な内容が同時に併存する様相が観察される結果になっている。被害児童には、様々な内的葛藤や苦悩が生じているであろうことも、特筆すべきであると言える。

9.4.8 女性養育者に対する被害児童の評価・感情に関する考察

女性養育者に対して被害児童が抱く評価・感情の分析では、男性養育者と同じく6つの類型が抽出されたが、その様相は男性養育者のものと比べていくつかの点で異なるものとなった。「好意・安心」で形容されるパターンが4割強、明確な所見のない例が25%程度となった。拒否嫌悪や恐怖、分離希望の対象といった項目への該当で特徴付けられるパターンは8%程度にとどまり、それに代わって「あきらめ・守ってくれない」、「言うことを信じてもらえない」といった所見が目立った。あきらめの感情は、女性養育者に対して嫌悪等の感情を抱く場合だけでなく、両価的感情や好意を寄せている場合にも併存し、その場合には同時に「気遣いの対象」や「歪んだ愛着・依存」と形容される状態が併存していることが多く見られている。男性養育者に対する評価・感情とは背景も内容も異なるものの、被害児童が複雑な感情を抱えている点では共通していると考えられる。

9.4.9 男性養育者の外部観察情報等に関する考察

男性養育者の外部観察情報については、8つのパターンが抽出される結果となった。「自然な範囲」あるいは特段明確な問題所見の得られないパターンが50%程度を占め、次いで、何らかの問題関連所見に散発的に該当する例が26%程度を占める結果となった。その他のパターンでは、暴力的・反社会的と形容されパターンが3つの類型で抽出され、衝動性を最大の特徴とする暴力的な類型、子どもの落ち度の指摘や子どもの嘘を強調することを主たる特徴とする情報・印象操作型の類型、支援者に対してその場逃れ・面従腹背的態度をとる回避型の類型が抽出された。暴力性が目立たない他のパターンには、情緒的コミュニケーションや親密な関係構築が困難であると観察されるパターン、親密な関係構築の困難に社会的孤立を併せ持つパターン、精神的衰弱や自己評価の低さ、臆病さ、養育の不履行と社会的孤立を伴うパターンが得られた。

男性養育者の評価について、外部から観察される情報を切り口にした場合、本節の結果からは、(1)暴力的な態度を有する場合、(2)親密な関係構築・情緒コミュニケーションの困難や社会的孤立がある場合、(3)臆病さや精神的衰弱を伴う場合に、子どもの家庭内性被害を懸念する必要があるかもしれない。また、暴力的な態度を有する男性養育者に関しては、「子どもの落ち度を指摘する・嘘を強調する」といった印象操作や、「関係者との接触・説明回避、嘘やその場逃れの態度」といった回避型の態度を伴う場合には、より一層の注意が必要だと指摘されうる。ただし、男性養育者が「自然な範囲」と形容される場合や、問題関連所見に該当する特徴が少ない場合においても(報告例は当該パターンの方が多い)、被害が発生していることは特記すべき事項であるだろう。

9.4.10 女性養育者の外部観察情報等に関する考察

女性養育者の外部観察情報については、男性養育者の類型よりもさらに多く、10のパターンが抽出される結果となった。大きく分けて、「自然な範囲」である場合、ネグレクトや子どもとの情緒的結びつきの希薄さを特徴とする例、反社会性・暴力性・他責的な女性養育者、臆病さや精神的衰弱が目立つ例が抽出された。「自然な範囲」である場合を除き、ほとんどのパターンで経済的自立の困難に係る該当が一定数以上報告されている。

女性養育者が直接的な加害者となる例は本調査で報告された事例において少ない。すなわち、多くの場合で女性養育者は非加害親となる。したがって、「自然な範囲」であることを除いて、上記に挙げた要因は子どもの家庭内性被害の間接的な促進要因になっているものと推測される。具体的には、ネグレクトや情緒的な結びつきの希薄さ、暴力性・反社会性、臆病さや精神的衰弱、経済的依存といった特徴は、子どもを保護する機能の低下と関連しうると考えられる。このとき、女性養育者の精神的な衰弱は、加害者によってもたらされた結果としても解釈されうる。

経済的な依存関係(経済的自立の困難)や衰弱は、加害者と女性養育者の間に介在する大きな力関係の発生(支配的關係等)に関連するものと考えられる。また、保護機能の低下は、加害者と被害児

童の間に発生する閉鎖的な関係を抑止する機能の低下につながるものと考えられる。こういった要因から、家族内での閉鎖的な関係や、加害者と被害児童間の閉鎖的な関係が発生し、子どもの家庭内性被害が生じているといった流れも想定されるだろう。

なお、男性養育者の外部観察情報所見と同様に、女性養育者が「自然な範囲」と形容される場合であっても、子どもの家庭内性被害は発生している。特定の養育者の所見で課題が観察されないからといって、被害の可能性を排除することは得策ではない。

9.4.11 被害児童に随伴する問題あるいは障害と養育環境・世帯情報に関する考察

被害児童に随伴する問題あるいは障害と、養育環境・世帯情報に関する分析の結果、数量的分類からは5つのパターンが得られた。

被害児童や世帯全体の課題として、被害児童への「ネグレクト」を主たる特徴とするパターン、心理的・身体的暴力(DV・面前暴力を含む)あるいはネグレクトを複合的に抱えるパターン、明確な問題関連項目には該当が少ないパターン、直接的な身体暴力はないが、心理的暴力やネグレクトなどの非接触性暴力を伴うパターン、子どもの発達障害とそれに随伴する心理・身体的虐待を特徴とするパターンが抽出された。なお、「家族構成・出入り者の変化」、「きょうだいの虐待係属歴」、「複数人が狭い部屋で生活」、「内縁者などの登録のない大人の居住・出入り」、「子どもの不登校がある」といった特徴は、これらのパターンのいずれにも共通して認められている。

当該結果から、子どもへの性的加害が発生する背後には、往々にして心身への暴力やネグレクトが複合的に伴っている例が多いことが読み取られる(そうではない例ももちろんある)。性的被害が単体で起こることは相対的に多くなく、きょうだいの虐待係属歴や生活環境に何らかの特徴的所見が認められる場合が多い。したがって、家庭内に上記に指摘される何らかの問題が発生している場合には、「性被害の可能性がある」ものとして捉えた見立てが必要になると考えられる。

なお、子どもの障害に関しては、「障害のみを最大の特徴とする」分類結果が得られなかったことから、間接的に「子どもの障害は、それ単体で性被害の発生を予測するものではなく、他の問題に随伴した場合に、発生リスクを高める一つの要因である」ものであることが推測された。子どもの障害は、加害者との力関係の差を強調する一つの要素として関連する可能性や、きょうだいへの加害発生等に関連する可能性など、様々な間接要因として機能する可能性が指摘されうる。性被害の発生を懸念した支援やケアは、もちろん重要ではあると考えられるが、障害があるからといって加害・被害の発生が予測されるとは考えがたい。他の主たる特徴に子どもの障害が併存した場合に、懸念を強めるという見方が、現時点では妥当であると考えられる。

9.4.12 子どもの家庭内性被害の発生パターンに関する量的側面からの考察

養育者や被害児童、家庭環境情報等に関する分類の結果は、子どもの家庭内性被害に関係する各構成要素の典型例を示す結果となった。男性養育者、女性養育者をはじめとする家族と家族間の関係、養育環境等の情報について、いくつか印象的なパターンが示されている。

しかし、これらのパターンの組み合わせを求めたところ、本調査で報告された事例件数と同数となるユニークな組み合わせが確認された。すなわち、「子どもの家庭内性被害が発生する条件・構造は、個別に見た場合には多種多様である」と結論することができる。

個別の発覚事例に対しては、上述のとおり一つひとつの事例の多様さに即した見立てを講じる必要がある。一方、これらの特徴を「性被害の発生を助長する要因である」と捉えれば、多様な性被害の発生構造を一段抽象的な観点から統一的に整理することが可能であると考えられる。本節では、それを「閉鎖性(保護・援助要請機能の不在または剥奪)」と「性的境界の侵害(一方的または双方向的な性的距離の近接)」という二つのキーワードから考察したい(当該キーワードを用いた総括は第21章に記載する)。

子どもの家庭内性被害は、(子ども、あるいは、家庭内に限らないが)加害者と被害児童、あるいは被害児童の属する家庭内で問題が閉鎖し、外部に発信されにくいという特徴を有する。そして、「加害の発生」は言い換えれば「性的境界の侵害」であり、加害者―被害児童間の(性的)距離が不適切な形で近接・逸脱した現象と言える。

閉鎖性(保護・援助要請機能の不在または剥奪)と性的境界の侵害(一方的または双方向的な性的距離の近接)は、潜在化する子どもの家庭内性被害において、必ず発生している要素であると考えられる。当該視点から、改めて本章の解析結果を解釈した場合、多様な組み合わせを持つ事例像に共通の理解を与えられる可能性がある。

例えば、加害者による暴力的な支配は、加害者―被害児童間や家庭内に「閉鎖性」を作り出す要因となるだろう。非加害親の衰弱や被害児童に対するネグレクト・情緒的な関係の希薄さは、加害者―被害児童間の閉鎖的な関係を助長する要因となるかもしれない。また、男性・女性養育者の社会的孤立は、家庭内をより閉鎖的にする要素であるとも考えられる。このように、本章で示唆された、いくつかの典型的な特徴は、閉鎖性を生み出す要因群であるという視点から整理することができる。また、「性的境界の侵害」に関しては、加害者の暴力的な側面(圧倒的な力の差・権力の誇示)や性に関する逸脱した価値観といった要因が、侵害の発生に影響を与える主たる要素であることが推測される。また他にも、「複数人が極めて狭い部屋で寝ている」という物理的な距離の近接なども、性的境界を侵害する要因になるものと解釈できる。子どもに対する養育不履行や不足、養育者の自己中心性といった特徴は、性的な境界を曖昧にし、性行為の目撃や性刺激への暴露の発生などにも影響するだろう。このように、「閉鎖性と境界の侵害」が多種多様な要素に起因して発生

することにより、子どもの家庭内性被害という問題が発生していると解釈することができるだろう。

閉鎖性と性的境界の侵害という捉え方は、個別事例の多様さを共通の枠組で整理できるだけでなく、本事業で扱われた特徴情報(調査項目)の範囲外の関連事象について考える場合であっても、それを組み込んで現象を説明・解釈してゆけるという利点を有するものと考えられる。「どのような形の閉鎖が発生しているか」など、見立ての例を含めた総合的考察は、本章以降の解析結果等も含めて、第 21 章に整理する。